

# 富山県博物館協会 五十年史

1966 - 2015

富山県博物館協会

平成27年3月



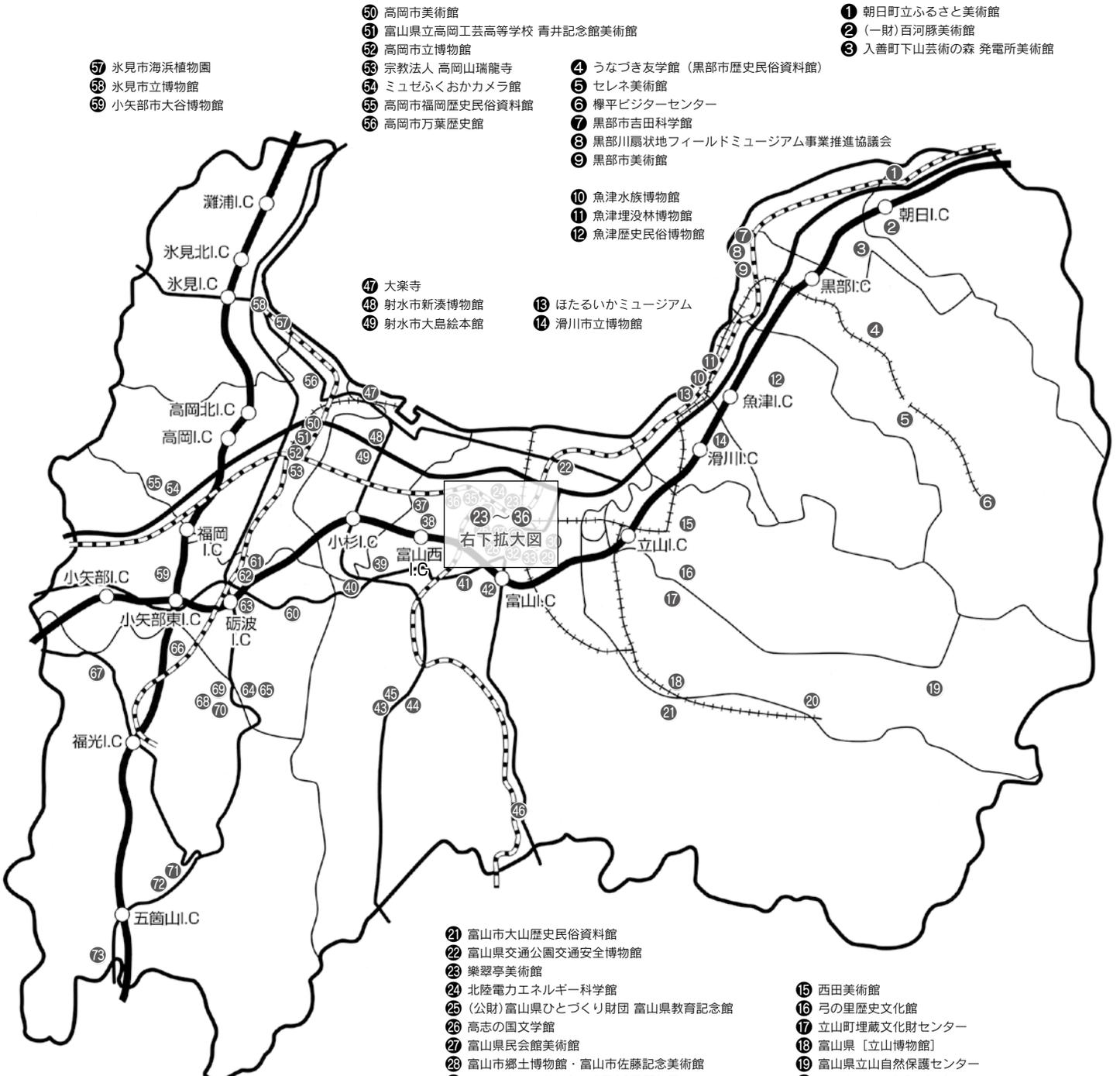
# 富山県博物館協会五十年史

1966-2015

富山県博物館協会

平成27年3月

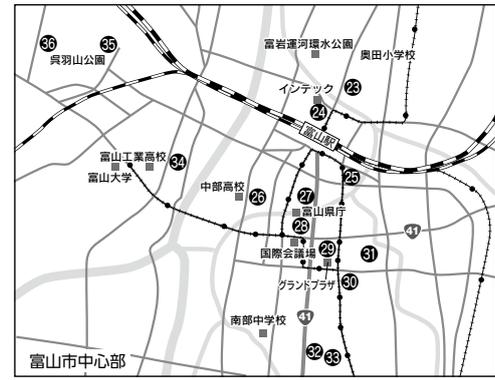
# 富山県博物館協会加盟館園案内図



- 50 高岡市美術館
- 51 富山県立高岡工芸高等学校 青井記念館美術館
- 52 高岡市立博物館
- 53 宗教法人 高岡山瑞龍寺
- 54 ミュゼふくおかカメラ館
- 55 高岡市福岡歴史民俗資料館
- 56 高岡市万葉歴史館
- 57 氷見市海浜植物園
- 58 氷見市立博物館
- 59 小矢部市大谷博物館
- 47 大楽寺
- 48 射水市新湊博物館
- 49 射水市大島絵本館
- 18 ほたるいかミュージアム
- 14 滑川市立博物館
- 7 黒部川扇状地フィールドミュージアム事業推進協議会
- 9 黒部市美術館
- 10 魚津水族博物館
- 11 魚津埋没林博物館
- 12 魚津歴史民俗博物館
- 1 朝日町立ふるさと美術館
- 2 (一財)百河豚美術館
- 3 入善町下山芸術の森 発電所美術館

- 21 富山市大山歴史民俗資料館
- 22 富山県交通公園交通安全博物館
- 23 樂翠亭美術館
- 24 北陸電力エネルギー科学館
- 25 (公財)富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館
- 26 高志の国文学館
- 27 富山県民会館美術館
- 28 富山市郷土博物館・富山市佐藤記念美術館
- 29 富山市ガラス美術館 (8月22日開館予定)
- 30 大谷和子子ども美術館
- 31 ギャラリー・ミレー
- 32 富山市科学博物館
- 33 富山県立近代美術館
- 34 富山県水墨美術館
- 35 富山市民俗民芸村
- 36 富山県埋蔵文化財センター
- 37 富山ガラス工房
- 38 富山市ファミリーパーク
- 39 富山市天文台
- 40 自然博物館「ねいの里」
- 41 富山県中央植物園
- 42 富山県国際健康プラザ 生命科学館
- 43 富山市八尾曳山展示館
- 44 富山市八尾おわら資料館
- 45 民俗資料館 村上家
- 46 富山市猪谷関所館
- 15 西田美術館
- 16 弓の里歴史文化館
- 17 立山町埋蔵文化財センター
- 18 富山県 [立山博物館]
- 19 富山県立山自然保護センター
- 20 立山カルデラ砂防博物館

- 60 宗教法人 千光寺
- 61 砺波市美術館
- 62 砺波市立砺波郷土資料館
- 63 となみ散居村ミュージアム
- 64 松村外次郎記念 庄川美術館
- 65 庄川水資料館
- 66 福野文化創造センター ヘリオス
- 67 南砺市立福光美術館
- 68 南砺市埋蔵文化財センター
- 69 井波彫刻総合会館
- 70 井波美術館
- 71 南砺市立相倉民俗館
- 72 民俗資料館 村上家
- 73 宗教法人 行徳寺



# 五十年史発刊にあたって

富山県博物館協会

会長 雪山行二



今年、富山県博物館協会は設立50年を迎えます。これを機に当協会の活動の歩みを振り返り、そこから学び得たものを今日の活動に生かし、さらに未来に向けての指針の一つになればとの思いから、当協会の会報『とやまミュージアム・アニュアル』第37号を兼ねて、この『50年史』を発行いたします。

現在、当協会の加盟館は73館を数えますが、設立当初はわずか6館でした。そのなかには1913（大正2）年にわが国最初的水族館として開設された魚津水族館のような先駆的な例もあります。しかし一般的には、本県における博物館活動は戦後、それも1951（昭和26）年に博物法が成立したのちに始まったと言えるでしょう。そして日本経済の高度成長のあとを追って、1980～90年代にかけて急速に数を増し、今日に至っています。

富山県の博物館は、単位人口当たりとしては全国でも長野県、山梨県に次いで3位を占めています。その内容も多岐にわたり、特に魚津埋没林博物館、入善町下山芸術の森発電所美術館、立山カルデラ砂防博物館、富山県立山博物館、ほたるいかミュージアム、富山ガラス工房、高岡市万葉歴史館、となみ散居村ミュージアムなど、ユニークな博物館が数多く含まれています。

この50年間にわが国における博物館活動は大きく発展してきました。いまや学校教育においても、広く市民生活においても欠かせない存在になり、その影響は社会のなかに深く浸透しています。博物館を取りまく状況も変わり、社会から求められる役割もただ拡大するだけでなく、質的にも変化してきました。

たとえば博物館法によれば、博物館の基本的使命とは、価値ある資料の「収集」、「保存」、「公開」にあります。今でもこれは真理だと私は考えますが、近年、このなかでも「公開」が以前にも増して大きな比重を占めるようになっています。それは資料を公開する機会がふえることを意味するだけでなく、人びとが資料あるいはそれに関する情報に主体的にアクセスすることを意味します。インターネットが急速に発達した今日、人びとは博物館から与えられるものを受容するという受け身の立場から、その資料と情報を積極的に活用することが可能になり、また、それが市民の当然の権利であると考えられるようになってきました。

博物館と利用者の関係は、知識を与えるとか、すでに定まった価値を教えるといった一方的なものから、相互

の協力によって新しい価値を生み出すという双方向の関係に、徐々に移りつつあるように思われます。博物館が所有する資料と情報は——究極的にはモノとしての資料の方が重要ですが——人びとの批判的な目にさらされることによって新たな価値を獲得するのです。

また、今日、ボランティアをはじめさまざまなかたちで、市民が博物館の活動に参加するようになっていきます。社会的責任を自覚した個人、NPO法人、教育機関、企業などとの「協働」なくして博物館の運営は難しくなっています。このように、博物館はいろいろな意味で社会に開かれたものになりつつあります。そして、博物館を核とした幅広い人びとの交流は、その枠をこえて社会全体に浸透していくのではないのでしょうか。

阪神淡路大震災から20年、東日本大震災から4年が過ぎました。この2つの災害だけでも数多くの博物館が被災し、膨大な資料が失われました。しかしその一方で、文化財などに対するレスキュー活動も活発に行われるようになりました。そのような状況の下で、博物館の使命とは何か、社会のなかで博物館はいかなる存在なのか、被災者に対して博物館は何かができるのか、等々、私たちは根源的な問いを突きつけられています。

この2つの大災害は、特に地域社会における博物館の役割というものを再認識させました。博物館の活動は地域社会のアイデンティティーを形成する上で、非常に重要な役割を担っています。災害からの復興のなかで、博物館の活動はその地域の人びとの精神的な支えとなっているのです。

富山県にはユニークな博物館が数多く存在し、その土地に根ざした活動を展開しています。このたびの北陸新幹線の開業により首都圏との距離は飛躍的に短縮されましたが、それだけに、それぞれの博物館は「オンライン・ミュージアム」を目指して個性豊かな活動を展開しなければならないと思います。

博物館の使命には、変わるものと変わらないものがあります。当協会設立50年に当たり、私たちは先輩たちの多大なご努力とその成果を踏まえ、未来に向けて新しい博物館像を打ち立てていかなければならないと思います。皆様のご協力とご鞭撻をお願い申し上げます。次第です。

（富山県立近代美術館館長）

# お 祝 い

日本博物館協会

会長 銭谷 眞美



昭和41年に富山県博物館協会が加盟6館で創立され、本年で50年を迎え加盟館も73館へと拡充されましたことは、我々博物館関係者にとっても誠におめでたいことと心からお慶び申し上げます。

日本博物館協会調査によると、昭和41年当時の博物館数は全国で777館（但し、神奈川県、香川、秋田県の数字が入っておらず、他の数県でも不完全であったと付記されていますが）、うち日本博物館協会加入館は300余でありました。それが、現在、博物館数は文部科学省調査では5,747館と7倍強に増え、当協会加入館は1,200館余へと推移しております。また、富山県は、多くの素晴らしい博物館園を擁し、人口100万人当たり博物館数も全国第3位であるとお聞きしています。

博物館は、歴史や芸術、民俗、産業、自然科学など多岐にわたるテーマについて、資料の調査研究、収集、保管、展示などの事業を通じ、国民が楽しく学びながら、明日を考える糧を手に入れることを願って活動しております。また、日本を訪れる多くの外国人の方が、博物館を利用することで、日本への理解を深めていただければと思っております。

一方で、近年の博物館を取り巻く社会的環境は、厳しさを増すとともに著しく変化しています。こうした状況と運営や活動の変化のなかで、博物館には、生涯学習社会の進展や国民の知的要求に積極的に応えていくことが従来にも増して求められています。

博物館がその本来の目的や機能を果たし、公益性を確保していくためには、関係者がその職務を遂行していく上で拠り所として共有できる行動の指針が求められていることから、当協会では、平成24年7月、「博物館の原則」及び「博物館関係者の行動規範」を制定し、公表致しました

この原則、行動規範は、博物館の組織基準とも言える文部科学省告示「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」と一対をなすものであり、両者を有効に活用することで、より実態的な博物館の在るべき姿の実現に向けて、効果的な成果を上げることが期待できます。

今後、これらの趣旨が浸透し、博物館の公益性と信頼性が向上して全国各地の博物館活動が一層充実・振興していくことを確信し、貴協会におかれても益々ご発展されることを希求して止みません。

# 富山県博物館協会設立五十年にあたり

富山県知事

石井 隆一



このたび、富山県博物館協会が設立50周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

貴協会には、昭和41年の設立以来、半世紀の永きにわたり、県内博物館等の相互の連携を図るとともに、展覧会等の情報発信や学芸員の研究活動支援など、活発な活動を続けられ、本県の芸術文化の振興に大きく貢献いただいています。現在では、歴史や民俗、自然、芸術文化など様々な分野の個性あふれる73館園が加盟し、それぞれの特長を活かした収集・研究活動が行われるなど、博物館事業の発展に大きな成果を挙げておられます。

ここに、雪山会長をはじめ歴代役員並びに関係の皆様方の長年にわたるご尽力に、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、今日、社会経済情勢が大きく変化するなかで、人と人とのふれあい、ゆとりや生きがいといった心の豊かさが求められるようになり、芸術文化や生涯学習に対する関心は、ますます高まりをみせています。また、現在の我が国は、東日本大震災からの復興をはじめ、経済再生、少子高齢化・人口減少対策など、多くの難しい課題に直面していますが、こうしたときこそ、芸術文化に親しむことで、人々の心、精神を元気に、豊かにすることが大切です。

このため、県では、多くの関係の皆様のご協力をいただきながら、芸術文化の振興を通じた「元気とやま」の創造に全力で取り組んでいるところです。

また、本県では、去る3月14日、県民の半世紀近い悲願であった北陸新幹線がついに開業しました。さらなる県外客の増加を見据え、富山に行けば多彩で素晴らしい芸術文化が楽しめると感じていただけるよう、今後とも、首都圏をはじめ全国に向けたPR等に積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

こうしたなか、地域の博物館等においても、施設の特長を活かした魅力ある企画を展開することが重要であり、各施設の活動を支える貴協会の果たす役割は、今後ますます大きくなるものと思われ、貴協会のこれまでの歩みや、本県における博物館の歴史などがまとめられた「富山県博物館協会五十年史」の刊行は、今後の博物館事業を進めるうえで、大変意義深いものがあります。

県では、今後とも、貴協会をはじめ関係団体と連携し、本県の芸術文化の振興に全力を尽くしてまいりますので、皆様方には、このたびの設立50周年を契機として、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、富山県博物館協会の限りないご発展と、関係の皆様のますますのご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げます。

---

# 富山県博物館協会五十年史

兼 富山県博物館協会会報 第37号(平成26年度)

## 目次

### 五十年史発刊にあたって

富山県博物館協会 会長 雪山 行二

### お祝い

日本博物館協会 会長 銭谷 真美

### 富山県博物館協会設立五十年にあたり

富山県知事 石井 隆一

富山県博物館協会年表	7
地域に根差した美術館を目指して	20
高岡市美術館 館長 村上 隆	
富山の自然:魚津水族館の役割	21
魚津水族館 館長 稲村 修	
ふるさと教育と博物館活動	22
富山県〔立山博物館〕 館長 高木 三郎	
博物館が地域と連携して実践する「地域回想法」について	23
氷見市立博物館 館長 小境 卓治	
客の心になりて	24
砺波市美術館 館長 小野田 裕司	
富山市科学博物館の役割	25
富山市科学博物館 館長 上杉 俊男	
富山県博物館協会 表彰者	26
富山県美術館・博物館 研究補助/研修助成	27
富山県博物館協会規約	29
加盟館園一覧	30
事務局だより (平成26年度)	34
加盟館園職員名簿 (平成27年度)	35

## 富山県博物館協会年表

※各加盟館の開館等は、原則として協会設立以前のもののみを掲載した

※各加盟館の名称等は、原則として当時のものを用いた

※年表は「年」単位で作成、ただし加盟館の入退会については「年度」単位で記載した

※「年度」について、設立当初は4月1日から3月末日と厳密に捉えず、3月末にその年の総会を開催するなど、ゆるやかな運用をしていたようである

### 1913 大正2年

北陸本線が全線開通（米原～直江津）

8月、1府8県連合共進会が富山市で開催された際の第2会場として、魚津水族館開館（正式開館は9月。昭和19年、第二次世界大戦のため閉館）



### 1945 昭和20年

ポツダム宣言受諾 太平洋戦争終わる

### 1951 昭和26年

サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約が結ばれる

「高岡産業博覧会」開催

朝日町宮崎自然博物館、高岡市美術館開館  
12月、「博物館法」公布（翌年7月29日、「富山県博物館の登録に関する規則」公布）

### 1952 昭和27年

学芸員の資格等を定める博物館法施行規則が制定され、文部省より県内初の学芸員資格者認定（高岡市立美術館・穴蔵俊雄 宮崎自然博物館・漆間元三、山本潔、太田弘、九里道守）

### 1954 昭和29年

「富山産業博覧会」開催

8月、定塚武敏（高岡市美術館）、九里道守（宮崎自然博物館）が東京芸術大学に派遣され40日間の学芸員講習を受ける  
富山市立郷土博物館、魚津水族館（二代目）、魚津埋没林館開館

### 1955 昭和30年

「博物館法」一部改正（学芸員資格講習廃止、「博物館相当施設」に関する規定の明確化など）

### 1956 昭和31年

日本が国連に加盟

9月、国内最大級の口径40cmの望遠鏡を備えた富山市天文台が呉羽山にオープン（平成9年、富山市三熊に移転）



この頃「富山県博物館協議会」（現在の協会の前身）設立  
・年に1、2度会合、事務局は県教委に置かれた

### 1958 昭和33年

第13回国民体育大会（富山国体）開催 富山県内でテレビ放送が始まる

### 1960 昭和35年

政府が「国民所得倍增計画」を決定

第2回北信越博物館協議会総会（富山大会）を開催

### 1961 昭和36年

イタイタイ病が公害問題に（1968年公害病に認定）

富山美術館（佐藤美術館）開館

### 1963 昭和38年

富山空港開港 黒部ダム完成 38豪雪

### 1964 昭和39年

富山県民会館美術館・博物館開館

## 1965 昭和 40 年

富山市民芸館開館  
第 7 回北信越博物館協議会総会（富山大会）を開催

## 1966 昭和 41 年

「富山県博物館協会」設立  
◇創立時加盟 高岡市美術館、富山県立郷土博物館、  
富山市民芸館、富山県民会館美術館・博物館、魚津  
水族館、河内美術館 **加盟6館**  
・初代会長・江尻章、事務局・富山県立郷土博物館  
・会費 1,000 円、予算 6,000 円、決算 6,000 円

## 1967 昭和 42 年

文部省による学芸員資格証明書交付の取りやめ

◇新規加盟 朝日町宮崎自然博物館、佐藤美術館  
**加盟8館**  
11 月 7 日、連絡協議会を富山県立郷土博物館で開催

## 1968 昭和 43 年

文部省の外局として文化庁設置 明治百年記念式典

「富山新港」開港

2 月 27 日、総会を富山県立郷土博物館で開催

## 1969 昭和 44 年

アメリカのアポロ 11 号が月面着陸に成功する

全国植樹祭が砺波市頼成山で開催

4 月 1 日、「富山県博物館協会規約」施行  
6 月 27 日、協議会を富山県立郷土博物館で開催

## 1970 昭和 45 年

大阪万博が開催

◇新規加盟 二上山郷土資料館 **加盟9館**  
2 月、初代会長の江尻章氏が亡くなる  
2 月 25 日、総会を高岡市美術館で開催  
・二代会長・定塚武敏、事務局・高岡市美術館  
7 月 23 ~ 24 日、第 12 回北信越博物館研究協議会を  
高岡市立博物館で開催



## 1971 昭和 46 年

立山黒部アルペンルートが全線開通

博物館法一部改正（文部大臣が行っていた「博物館相当施設」の指定は国の施設を除き、都道府県教育委員会が行うことに）

◇新規加盟 民俗資料館村上家、高岡市立博物館  
**加盟11館**  
4 月 1 日、富山県博物館協会規約を一部改正

## 1972 昭和 47 年

沖縄が日本に復帰 札幌冬季オリンピック開催

田中角栄通産大臣が「日本列島改造論」を発表

3 月 24 日、協議会を高岡市立美術館で開催  
・予算 22,311 円、決算 4,868 円  
11 月 17 日、協議会を高岡市立美術館で開催

## 1973 昭和 48 年

石油危機が起こる

「公立博物館の設置及び運営に関する基準」が文部大臣により告示

1 月、「富山県文化財・博物館分布地図」を県教委と共編・  
発行、県内外に配布（1,000 部）  
3 月 24 日、協議会を高岡市立  
美術館で開催  
4 月 12 日、総会を高岡市立美  
術館で開催  
10 月 9 日、協議会を富山県立  
郷土博物館で開催



## 1974 昭和 49 年

◇新規加盟 魚津市立歴史民俗資料館、立山風土記の  
丘資料館、相倉民俗館、利賀民俗館 **加盟15館**  
4 月 23 日、総会を富山県立郷土博物館で開催  
6 月 25 日、協議会を富山県民会館で開催  
10 月 8 日、文化講演会を富山県民会館で開催

## 1975 昭和 50 年

文化財保護法改正（進展する開発事業からの埋蔵文化財保護制度の充実など）

◇新規加盟 上平村五箇山民俗館、重要文化財岩瀬家  
**加盟17館**  
4 月 25 日、総会を高岡市立博物館で開催

5月10日、6月14日、協議会を富山市立郷土博物館で開催

7月10日～11日、第17回北信越博物館研究協議会を呉羽ハイツで開催

8月11日、協議会を高岡市立博物館で開催

## 1976 昭和51年

### 第31回国体冬季大会（おおやま国体）開催

◇新規加盟 魚津埋没林博物館 **加盟18館**

3月19日、職員研修会を高岡市立博物館で開催

5月27日、総会を高岡市立博物館で開催

・予算 703,000円 決算 681,475円

・この年から県補助金を受ける（予算額9万円）

9月30日、協議会を高岡市立博物館で開催

11月12日、協議会を富山市郷土博物館で開催

## 1977 昭和52年

◇新規加盟 行徳寺 **加盟19館**

2月24日、協議会を高岡市立博物館で開催

3月16日、職員研修会を高岡市立博物館で開催

3月30日、「富山県美術館・博物館ガイド」を県教委と共編・発行（2,000部）

5月11日、総会を高岡市立博物館で開催

・県補助金10万円

8月5日、協議会を富山市立郷土博物館で開催

12月2日、協議会を高岡市立美術館で開催



## 1978 昭和53年

◇新規加盟 大谷和子こども美術館、富山県教育記念館博物館、本法寺、瑞龍寺、武田家、千光寺、井波歴史民俗資料館、富山市科学文化センター **加盟27館**

2月24日、協議会を高岡市立美術館で開催

3月16日、総会を高岡市立美術館で開催

3月20日、「富山県文化財・博物館等分布地図」を改訂再発行（県教委と共編・発行）

3月23日、「富山県立美術館への提言」を県知事、県教育委員会教育長あてに提出（県立美術館として基本的性格を堅持すること、今後の県立博物館設置の構想を明らかにすること、県立美術館は県内博物館の体系的整備の母体の役割を果たすべきことなど）

6月15日、協議会を高岡市立美術館で開催

## 1979 昭和54年

### 第二次石油危機起こる

◇新規加盟 滑川市立博物館、水橋郷土資料館、日本自動車博物館／退会 重要文化財岩瀬家 **加盟29館**

2月、協議会を高岡市立美術館で開催

3月10日、職員研修会を高岡市立博物館で開催

3月30日、『博物館協会会報』

創刊号を発行

6月22日、総会を高岡市立美術館で開催

・博物館協会規約を一部改正

11月8日、理事会を高岡市立美術館で開催



## 1980 昭和55年

◇新規加盟 富山県立近代美術館 **加盟30館**

2月5日、理事会を高岡市立美術館で開催

3月15日、職員研修会を高岡市立博物館で開催

3月25日、『博物館協会会報』第2号を発行

5月27日、総会を富山市立郷土博物館で開催

6月19日～20日、第22回北信越博物館研究協議会を富山県民会館で開催

・講演会「博物館の現状と課題」講師：加藤有次氏（国学院大学教授）



## 1981 昭和56年

### 56 豪雪

◇新規加盟 水見市立博物館 **加盟31館**

1月14日、職員研修会を富山市科学文化センターで開催

3月10日、理事会（役員改選打ち合わせ会）を富山市科学文化センターで開催

3月25日、『博物館協会会報』第3号を発行

5月12日、総会を富山市科学文化センターで開催

・三代会長・長井真隆、事務局・富山市科学文化センター  
・予算 301,000円、決算 298,210円

## 1982 昭和57年

◇新規加盟 自然博物園センター「ねいの里」、棟方志功記念館「愛染苑」／退会 武田家 **加盟32館**

1月26日、職員研修会を富山市科学文化センターで開催

・講演会「ヨーロッパの博物館事情」講師：定塚武敏氏（高岡市立美術館・博物館館長）

3月25日、『博物館協会会報』第4号を発行

5月21日、総会を富山市科学文化センターで開催

## 1983 昭和58年

「にっぽん新世紀博覧会」開催、太閤山ランドオープン

◇新規加盟 百河豚美術館、砺波郷土資料館 **加盟34館**

2月3日、職員研修会を富山市科学文化センターで開催

・講演会「図書館人からみたヨーロッパの博物館」講師：辻沢与三氏（富山市立図書館館長）

3月25日、『博物館協会会報』第5号を発行

5月24日、総会を富山市民俗民芸村で開催

12月6日、職員研修会を高岡市立博物館で開催

## 1984 昭和59年

◇新規加盟 富山市ファミリーパーク、大山町歴史民俗資料館 **加盟36館**

2月24日、職員研修会を魚津水族館で開催

3月25日、『博物館協会会報』第6号を発行

5月18日、総会を富山市立図書館で開催

9月12日、職員研修会を本法寺で開催

11月15日、職員研修会を氷見市立博物館で開催

12月21日、二十年史第1回編集委員会を富山市科学文化センターで開催

## 1985 昭和60年

◇新規加盟 桂樹舎和紙文庫、富山県警察資料展示室 **加盟38館**

1月22日、二十年史編集座談会を高岡市立美術館で開催

1月23日、二十年史編集座談会を富山市科学文化センターで開催

2月27日、二十年史第2回編集委員会を富山市科学文化センターで開催

3月25日、『富山県博物館協会二十年史』を発行（1,100部）、座談会「県博協二十年に想う」、座談会「これからの県博協」、博物館協会年表などを掲載。（会報第7号を兼ねる。）

4月16日、理事会を富山市科学文化センターで開催

5月10日、総会を富山市科学文化センターで開催

5月28日～29日、第27回北信越博物館協議会総会・研究協議会を富山市科学文化センターで開催



・講演会「地域文化とこれからの博物館」講師：長井真隆氏（富山市科学文化センター館長）

10月2日、職員研修会を朝日町宮崎自然博物館で開催

・講演会「宮崎自然博物館と富山市科学文化センターとのつながりについて」講師：布村昇氏（富山市科学文化センター主任学芸員）

・講演会「宮崎自然博物館について」講師：九里道守氏（宮崎自然博物館館長）

11月7日、職員研修会を井波歴史民俗資料館で開催

・講演会「天文の普及教育について」講師：渡辺誠氏（富山市科学文化センター学芸員）

・講演会「創造的生活を楽しむための子供美術館づくりについて」講師：大谷和子氏（大谷和子子ども美術館館長）

・講演会「地方の博物館の運営について」講師：岩倉節郎（井波歴史民俗資料館館長）

## 1986 昭和61年

社会教育審議会社会教育施設分科会が「社会教育施設におけるボランティア活動の促進について（報告）」をまとめる

◇新規加盟 富山県交通公園安全博物館、黒部市吉田科学館／退会 河内美術館 **加盟39館**

3月25日、『博物館協会会報』第8号を発行

5月13日、総会を富山市科学文化センターで開催

10月3日、職員研修会を自然博物園「ねいの里」で開催

・講演会「環境教育の実践について」講師：湯浅純孝氏（自然博物園「ねいの里」館長）

12月4日、職員研修会を富山県交通公園交通安全博物館で開催

・講演会「交通安全と博物館活動について」講師：清水昭作氏（富山県交通公園交通安全博物館館長）

## 1987 昭和62年

◇新規加盟 樺平ビジターセンター、黒部川電気記念館 **加盟39館**

3月25日、『博物館協会会報』第9号を発行

5月20日、総会を富山市科学文化センターで開催

・富山県博物館協会規約を一部改正施行

9月18日、第1回職員研修会を富山市ファミリーパークで開催

・講演会「動物園の目的と利用」講師：山本茂行氏（富山市ファミリーパーク主査）

10月21日、第2回職員研修会を樺平ビジターセンター、黒部川電気記念館で開催

## 1988 昭和 63 年

### 北陸自動車道全線開通（新潟黒崎～米原）

◇新規加盟 井波美術館、立山砂防資料館、我楽庵、のらくろ兵舎 **加盟45館**

3月31日、『博物館協会会報』第10号を発行

5月10日、総会を富山市科学文化センターで開催

10月20日、職員研修会を平村立相倉民俗館、上平村五箇山民俗館、民俗資料館村上家、行徳寺で開催



## 1989 平成元年

◇新規加盟 庄川美術館、猪谷関所館、福岡町歴史民俗資料館 **加盟48館**

3月31日、『博物館協会会報』第11号を発行

5月19日、総会を富山県立近代美術館で開催

・四代会長・楠頭秀、事務局・富山県立近代美術館

7月7日、理事会を高岡市立美術館、前期職員研修会を高岡市立博物館で開催

・講演会「企画展の運営について」講師：朝倉吉彦氏（高岡市立美術館・博物館館長）

・講演会「博物館の活性化について」講師：加藤淳氏（県教育委員会文化課副主幹）

10月3日、後期職員研修会を立山砂防工事現場で開催

・講師：米島弘司氏（立山砂防工事事務所副所長）

・講師：奥井幸雄氏（立山砂防資料館館長）

11月28日、理事会を富山県立近代美術館で開催



## 1990 平成 2 年

### 東西ドイツ統合 帆船海王丸富山公開

社会教育審議会「博物館の整備・運営の在り方について」中間報告（教育普及活動の充実、ニューメディア等実物以外の資料の活用、研究活動の充実、学校教育との連携など）

◇新規加盟 民芸茶屋庵、平村郷土館 **加盟50館**

2月1日、理事会を富山県立近代美術館で開催

3月31日、『博物館協会会報』第12号を発行

4月24日、理事会を富山県立近代美術館で開催

5月9日、総会を富山県立近代美術館で開催

・協会独自の制度として設けられた富山県博物館協会表彰規定に基づく第1回表彰を実施（以後毎年）

5月15日～16日、第32回北信越博物館協議会総会・

研究協議会を富山厚生年金休暇センター（大山町栗栗野）で開催

8月20日、前期職員研修会を庄川美術館で開催

・講演会「小さな美術館の大きな希望」講師：杉森富美吉氏（庄川美術館館長）

8月30日、博物館ガイド平成2年秋号を発行

・平成2年度より県教委からの受託事業として年2回、各1万部を発行（委託金40万円）

現在の「とやまミュージアムガイド」は、県文化課からの受託事業として発行していた「博物館ガイド」（平成2年～）が前身になっています。平成7年には県下の全小中学生に配布といった取り組みもありました。その後、平成10年3月から一時期は書籍『とやまの博物館を楽しむ』（博物館協会編集協力）の巻末付録サイズで製作されました。平成13年からは再び独立した印刷物として発行、平成16年からは「とやま博物館ガイド」として内容の充実をはかり、平成16年から18年には巻末に「富山県まるごとスタンプラリー」も掲載しました。時代の変化の中でさまざまに形を変えながら、今日まで引き続き好評をいただいています。

11月22日、後期職員研修会を高岡市万葉歴史館で開催

・講演会「越中国府解明の現状と問題点」講師：古岡英明氏（高岡市万葉歴史館研究員）

## 1991 平成 3 年

### 「バブル経済」崩壊 ソビエト連邦消滅

◇新規加盟 庄川町水資料館、富山県埋蔵文化センター／退会 我楽庵、のらくろ兵舎 **加盟50館**

3月20日、理事会を富山県立近代美術館で開催

3月31日、『博物館協会会報』第13号を発行

3月31日、博物館ガイド平成3年春号を発行

5月9日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催

9月1日、博物館ガイド平成3年秋号を発行

9月10日、前期研修会を富山県立近代美術館で開催

・講演会「展示・収蔵品の保存・修復について」講師：肥塚隆保氏（国立奈良文化財研究所）

10月29日～30日、協会創立25周年記念事業として後期研修会を県外開催とし、奈良国立博物館「正倉院展」や京都を視察

## 1992 平成 4 年

### 「第1回ジャパンエキスポ富山'92」開催

◇新規加盟 高岡市万葉歴史館、庄川民芸館 **加盟52館**

3月31日、『博物館協会会報』第14号を発行  
 3月31日、博物館ガイド平成4年春号を発行  
 5月13日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
 8月27日、前期研修会を富山県立近代美術館で開催  
 ・「博物館の設計と展示」講師：鈴木規夫氏（文化庁美術  
 工芸課文化財管理指導官）  
 9月1日、博物館ガイド平成4年秋冬号を発行  
 11月25日、後期研修会を富山県〔立山博物館〕で開催  
 ・講演会「立山信仰と立山博物館」講師：木本秀樹氏（富  
 山県〔立山博物館〕主任）

### 1993 平成5年

◇新規加盟 うなづき友学館、西田美術館 **加盟54館**  
 3月18日、理事会を富山県立近代美術館で開催  
 3月31日、博物館ガイド平成5年春夏号を発行  
 3月31日、『博物館協会会報』第15号を発行  
 5月27日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
 9月1日、「博物館ガイド」1993年秋冬号を発行（10,000部）  
 9月2日、前期研修会を魚津埋没林博物館、魚津水族館で開催  
 12月2日、後期研修会を（財）富山美術館で開催  
 ・講演会「富山美術館の概要と収蔵品について」講師：水岡郁子学芸員・小久保啓一学芸員（（財）富山美術館）

### 1994 平成6年

◇新規加盟 福光美術館、朝日町立ふるさと美術館 **加盟56館**  
 3月31日、『博物館協会会報』第16号を発行  
 3月31日、「博物館ガイド」1994年春夏号を発行（10,000部）  
 4月28日、理事会を富山県立近代美術館で開催  
 5月20日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
 ・五代会長・八木近直、事務局・富山県立近代美術館  
 ・富山県博物館協会規約を一部改正（任期中に役員が欠けた場合、後任者を充てることを規定）  
 9月1日、「博物館ガイド」1994年秋冬号を発行（8,000部）  
 9月28日、前期研修会をうなづき友学館、セレネ美術館、黒部川電気記念館で開催  
 10月27日、12月20日、県文化課が「博物館事業に係る意見交換会」を富山県立近代美術館で開催し、博物館の活



性化や学芸員研修の強化等について協議（図版は1994年12月5日付北日本新聞）

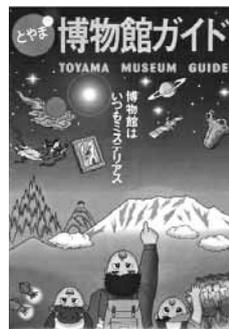
### 1995 平成7年

阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件起こる

五箇山の合掌造り集落が世界遺産に指定

月2回の「学校週5日制」実施

◇新規加盟 黒部市美術館、大楽寺、セレネ美術館、砺波市美術館、小矢部市教育研修資料館／退会 日本自動車博物館 **加盟60館**  
 2月9日、県文化課が「美術館・博物館ネットワーク推進会議」を富山県立近代美術館で開催  
 3月30日、後期研修会をCiCいきいき館ホールで開催  
 ・講演会「県博協の回顧と展望」講師：定塚武敏氏（富山県博物館協会第2代会長）  
 3月31日、『博物館協会会報』第17号を発行（B5判→A4判に）  
 4月13日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
 ・平成7年度予算額3,442,000円（前年度885,000円）、うち県委託金300万円（前年度40万円）  
 4月中旬、「とやま博物館ガイド」発行（B3判オールカラー、23万部作成、県内全小中学生に配布、年1回発行）  
 5月18日～19日、第37回北信越博物館協議会総会・研究協議会を高岡市美術館（宿泊：雨晴ハイツ）で開催  
 8月下旬、『富山県美術館・博物館関係職員名簿』を発行  
 9月20日、理事会を富山県立近代美術館で開催  
 11月21日、後期研修会を富山県民会館で開催  
 ・講演会「今なぜ博物館なのか」講師：米原寛氏（立山博物館主幹）  
 ・講演会と実演「インターネットとは」講師：浦野秀幸氏（NTT富山企業通信システム営業部第一営業担当部長）

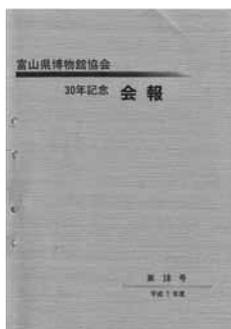


### 1996 平成8年

「第13回全国都市緑化とやまフェア」、「第11回国民文化祭とやま'96」が開催

3月31日、『博物館協会会報』第18号を発行  
 ・30年記念号として県教育委員会教育長の祝辞、寄稿「県博協の回顧と展望」（平成7年度後期研修会での定塚武敏氏講演の抄録）などを掲載

3月31日、「富山の美術館・博物館日帰りガイド」を発行  
 5月28日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
 12月13日、理事会を富山県立近代美術館で開催  
 12月、協会ウェブサイト（ホームページ）を開設



富山県博物館協会ウェブサイトは平成8年12月に開設されました。現在では多くの博物館で公式ホームページを持っていますが当時はまだ珍しく、全国各県の博物館協議会でも先進的な取り組みとして、まだ自前のホームページがなかった各博物館のインターネットでの情報発信に大きな役割を果たしました。平成12年にはデザインを一新、平成16年3月には文化庁「芸術拠点形成事業」の助成を受け、協会ウェブサイト内に英・韓・中・露の4カ国語版を開設しました（現在はなくなっています）。平成17年には独自ドメイン「museums.toyamaken.jp」を県の協力により取得。さらに平成25年3月には文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の補助金交付を受け、クラウド型情報入力機能により加盟館自身による最新情報の更新を可能にし、より迅速な情報発信をサポートしました。画面表示は2か国語表記とし、PC、スマホ、タブレットに対応しています。



## 1997 平成9年

### 瑞龍寺が国宝（県内初）に指定

◇新規加盟 立山カルデラ砂防博物館、入善町下山芸術の森発電所美術館、立山町郷土資料館／退会 民芸茶屋庵 **加盟62館**

3月25日、研修会を富山県民会館で開催  
 ・講演会「博物館活動を考える—私の体験から」講師：久泉迪雄氏（高岡市美術館館長）  
 3月31日、『博物館協会会報』第19号を発行  
 5月14日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
 7月、『富山県美術館・博物館関係職員名簿』を発行  
 9月26日、理事会、前期研修会を砺波市文化会館、砺波市美術館で開催

## 1998 平成10年

### 長野冬季オリンピックが開催

「公立博物館の設置及び運営に関する基準」の一部改正（公立博物館の学芸員定数規定の廃止など）

◇新規加盟 富山県水墨美術館、ほたるいかミュージアム、大島町絵本館 **加盟65館**

1月24日、後期研修会を富山県立近代美術館で開催  
 ・講演会「博物館をめぐる諸問題」講師：大塚和義氏（国立民族学博物館第一研究部教授）

3月31日、「とやま博物館ガイド」（加盟館行事予定平成10年度）を発行

3月31日、『博物館協会会報』第20号を発行

3月31日、『とやまの博物館を楽しむイラストガイド』に編集協力、楓工房より出版（同書の付録として「とやま博物館ガイド」（加盟館行事予定平成10年度）を刊行、今日の「とやまミュージアムガイド」に至る）



4月、『富山県博物館協会加盟館職員名簿』を発行

5月26日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
 ・六代会長・山口松蔵、事務局・富山県立近代美術館

9月25日、理事会を大島町絵本館で開催、前期研修会をミュージアム・バススクール「新規加盟館見学ツアー」として大島町絵本館、立山カルデラ砂防博物館、ほたるいかミュージアムを視察

10月7日、ミュージアム・バススクール「自然のふしぎ探索ツアー」を開催し、立山カルデラ砂防博物館、魚津埋没林博物館、魚津水族館、ほたるいかミュージアムを視察

11月11日、ミュージアム・バススクール「歴史をたどる古寺ツアー」を開催し、本法寺博物館、行徳寺赤尾道宗遺徳館、長恩山大楽寺を視察

## 1999 平成11年

◇新規加盟 富山県国際健康プラザ生命科学館、富山県中央植物園、新湊市博物館、坂のまち美術館、井波彫刻総合会館、大門町陶房匠の里／退会 富山県警察資料展示室 **加盟70館**

3月12日、理事会、後期研修会を富山県立近代美術館で開催

・講演会「日本の美術館・博物館の現状と県内の美術館・博物館活動のあるべき姿」講師：石丸正運氏（砺波市美術館館長）

3月31日、平成11年度行事予定を発行

3月31日、『博物館協会会報』第21号を発行  
 4月、『富山県博物館協会加盟館職員名簿』を発行  
 5月21日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
 ・表彰規定を改定（「優良職員表彰」の新設など）  
 9月22日、理事会を富山県水墨美術館で開催、前期研修会をミュージアム・バススクール「新規加盟館見学ツアー」として富山県水墨美術館、新湊市博物館、富山県国際健康プラザを視察  
 10月9日、ミュージアム・バススクール「とやまの自然探索ツアー」を開催し、富山市ファミリーパーク、自然博物館「ねいの里」、富山市科学文化センターを視察  
 11月4日、ミュージアム・バススクール「歴史を探る博物館ツアー」を開催し、氷見市立博物館、高岡市万葉歴史館、新湊市博物館を視察

## 2000 平成 12 年

第55回国民体育大会（2000年とやま国体）が開催

地方自治法の一部改正（博物館の登録・相当施設の指定などの事務が国の機関委任事務から都道府県の自治事務に）

◇新規加盟 福野文化創造センターヘリオス、富山県立高岡工芸高等学校青井記念館美術館／退会 庄川民芸館、本法寺 **加盟70館**

3月10日、理事会、後期研修会を富山県立近代美術館で開催

・講演会「富山県が生んだ工芸界の先覚者たち」講師：諸山正則氏（東京国立近代美術館工芸館主任研究官）

3月31日、「とやま博物館ガイド」（加盟館行事予定平成12年度）を発行

3月31日、『博物館協会会報』第22号を発行

4月、富山県博物館協会加盟館職員名簿を発行

4月1日、協会ウェブサイトのデザインを大幅に見直し

4月27日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催

5月16日～17日、第42回北信越博物館協議会総会・研究協議会（兼・前期研修会）をいこいの村富山で開催

・講演会「生涯学習と博物館活動」講師：石丸正運氏（砺波市美術館館長）

5月20日、富山テレビ製作「テレビ博物館ガイド」第1回放送（平成12～14年度にかけ各加盟館を紹介、委託費12～13年度100万円、14年度50万円）

9月21日、理事会を富山県立近代美術館で開催

・県公立美術館研究連絡会を発足（平成13年度、分野

別分科会の活動に発展）

## 2001 平成 13 年

アメリカで同時多発テロが起こる 文部省と科学技術庁が統合され文部科学省設置

国立美術館、国立博物館などが独立行政法人化 「文化芸術振興基本法」公布・施行

◇新規加盟 富山県立山センター立山自然保護センター、富山防災センター、氷見市海浜植物園、八尾町曳山展示館、八尾町おわら資料館／退会 富山佐藤美術館、西田美術館 **加盟73館**

2月17日～18日、理事会、富山県博物館・美術館研究発表大会：県博協フェア（兼・後期研修会）を富山県民会館で開催

・講演会「地方での博物館活動と21世紀の課題—富山市科学文化センターの活動から—」講師：布村昇氏（富山市科学文化センター館長）



平成13年2月17日～18日、「県博協フェア」を富山県民会館で開催しました。講演会「ものから心へ—博物資料の可能性」（講師 立山博物館 米原寛氏）、研究発表、各加盟館を紹介するパネル展示やVTR紹介をはじめ、各館のパンフレット配布、協会ホームページのPR、各加盟館の出版物の販売や、また歴史民俗、美術、自然科学などのジャンルごとに資料の取り扱いについて相談を受け付ける「博物資料相談コーナー」を実施しました。県博協フェアは翌平成14年3月2日～3日にも富山県民会館で開催。平成20～23年度は富山県文化振興財団との共催事業「ミュージアムフェア in 水墨美術館」を開催しました。



3月31日、平成13年度企画展予定を発行

3月31日、『博物館協会会報』第23号（付：加盟館

園職員名簿)を発行(この年の会報から各加盟館の紹介を簡略化、職員名簿を合冊とし、愛称を「とやまミュージアム・アニュアル」とした)

4月27日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
・分野別分科会を設置

設立当初と比べ大所帯となった博物館協会の活動をより活性化するため、「郷土・歴史系」、「理工・自然史系」、「美術系」の3つの分科会を設置し、独自の研修会開催などに取り組んでいます。協会への加盟は「館」が基本単位ですが、分科会では各加盟館の職員の専門性に応じて、柔軟に分科会に参加していただいています。

9月20日、理事会、前期研修会をとやま健康パークで開催

・講演会「美術館・博物館におけるデジタル映像ライブラリー構築の可能性」講師：糸岡栄幸氏(富山県総合情報センター)・河西健二氏(富山県教育委員会文化財課)

11月21日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を富山市科学文化センターで開催

## 2002 平成 14 年

### 完全「学校週5日制」の実施

◇新規加盟 城端曳山会館・城端町史館「蔵回廊」

#### 加盟74館

3月2日～3日、理事会、富山県博物館・美術館研究発表大会：県博協フェア(兼・後期研修会)を富山県民会館で開催

・講演会「ものから心へ—博物館資料の可能性」講師：米原寛氏(富山県立山博物館館長)



3月31日、「とやま博物館ガイド」(加盟館企画展予定平成14年度)を発行

3月31日、『博物館協会会報』第24号を発行(付：加盟館園職員名簿)

4月24日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
・予算額 H13 3,407,000 → H14 2,414,000 (うち県補助金 H13 300万 → H14 200万)

6月28日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を立山カルデラ砂防博物館で開催

10月2日、理事会、前期研修会を富山県立近代美術館で開催

・講演会「日本画にみる日本美術の近代化」講師：遠藤幸一氏(高岡市美術館館長)

11月13日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を魚津埋没林博物館で開催

## 2003 平成 15 年

「公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準」告示(数値基準削除による大綱化・弾力化、事業評価の努力規定など)「地方自治法」一部改正(公の施設の地方自治体出資団体への運営委託が廃止され「指定管理者制度」が導入される)

◇新規加盟 八尾町美術保存展示館、ミュゼふくおかカメラ館、西田美術館(再入会) 加盟77館

3月11日、理事会、後期研修会、分野別分科会を富山市科学文化センターで開催

・講演会「博物館力を活かす」講師：内山興亜氏((株)感覚都市研究所代表取締役)

・理事会で表彰規定を改定(職員推薦の時期を3月末から2月末とする)

3月28日、文化庁「芸術拠点形成事業」補助金(補助額4,681,530円)を受け、協会ホームページに4カ国語(英韓中露)サイトを製作

3月31日、「とやま博物館ガイド」(加盟館企画展予定平成15年度)を発行  
3月31日、『博物館協会会報』第25号を発行(付：加盟館園職員名簿)

4月24日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
6月25日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を富山県中央植物園で開催

10月9日、理事会、前期研修会をうなづき友学館で開催

・講演会「黒部川のあゆみ—電源開発を中心に」講師：山田時夫氏(黒部市文化財保護審議委員)

12月10日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を富山市ファミリーパークで開催

## 2004 平成 16 年

新潟県中越地震が起こる



## (新) 砺波市、南砺市が誕生

・新潟県中越地震(2004/10/23 発生)に際し、日本博物館協会の呼びかけに応じ、見舞金1万円を贈った

◇新規加盟 八尾町化石資料館「海韻館」、北陸電力エネルギー科学館／退会 水橋郷土史料館、樺平ビクターセンター **加盟77館**

3月5日、理事会、後期研修会、分野別分科会を富山県立近代美術館で開催

・講演会「博物館への期待」講師：布施実氏(NHK 富山放送局長)

3月31日、「とやま博物館ガイド」(加盟館企画展予定平成16年度)を発行(平成16年～平成18年、「富山県まるごと博物館」スタンプラリーを実施)

3月31日、『博物館協会会報』第26号(付：加盟館園職員名簿)を発行

3月31日、『とやまの博物館、文化施設を詠む』が刊行(県歌人連盟創立50周年記念事業・富山県博物館協会後援)

4月22日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催

・富山県博物館協会規約を一部改正(事業として「県民への普及啓発」を追加、「個人会員」の廃止など)

5月20日～21日、第46回北信越博物館協議会総会・研究協議会を八尾ゆめの森ゆうゆう館で開催(本来の当番年は平成17年だったが、都合によりこの回のみ当番入れ替えとした)

・講演会「博物館とミュージアム」講師：八木近直氏(富山県教育委員会教育委員長)

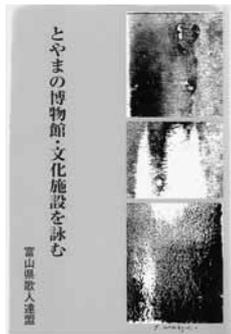
6月23日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を富山市科学文化センターで開催

12月15日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を氷見市海浜植物園で開催

12月、「富山県まるごと博物館スタンプラリー」応募者72名のうち規定を満たした70名に「ミュージアムマスター」認定証を発行

## 2005 平成17年

愛知万博が開催



## (新) 富山市、(新) 高岡市、射水市が誕生

◇新規加盟 水博物館構想推進室／退会 朝日町宮崎自然博物館、棟方志功記念館「愛染苑」、城端曳山会館・土蔵群「蔵回廊」、南砺市五箇山民俗館・煙硝の館

**加盟74館**

3月4日、理事会、研修会、分野別分科会を富山県立近代美術館で開催

・講演会「新潟中越地震と博物館活動」講師：横山秀樹氏(新潟県立万代島美術館館長)

3月31日、「とやま博物館ガイド」(加盟館企画展予定平成17年度)を発行

3月31日、『博物館協会会報』第27号を発行(付：加盟館園職員名簿)

4月、協会ウェブサイトの独自ドメイン「museums.toyamaken.jp」を富山県の協力により取得

4月27日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催

・七代会長・大畑年、事務局・富山県立近代美術館

・県補助金180万円

7月7日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を立山カルデラ砂防博物館で開催

## 2006 平成18年

### (新) 黒部市が誕生

「公益法人制度改革関連3法案」公布(2008年施行、2013年新制度へ完全移行) 「教育基本法」改正(「生涯学習の理念」の追加など)

◇新規加盟 弓の里歴史文化館、となみ散居村ミュージアム **加盟76館**

1月25日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を魚津埋没林博物館で開催

1月、昨年4月から11月にかけて実施した「富山県まるごと博物館スタンプラリー」の認定証を発行(達成者63名)

3月15日、理事会、研修会、分野別分科会を富山県立近代美術館で開催

・講演会「富山大学芸術学部と博物館の連携について」講師：前田一樹氏(富山大学芸術学部学部長)

3月31日、「とやま博物館ガイド」(加盟館企画展予定平成18年度)を発行

3月31日、『博物館協会会報』第28号を発行(付：加盟館園職員名簿)

5月11日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催

・八代会長・山下富雄、事務局・富山県立近代美術館

7月12日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を富山県中央植物園で開催

12月15日、4月から11月にかけて実施した「富山

県まるごと博物館スタンプラリー」の認定証を発行（達成者 68 名）

12月20日、理工・自然史系分科会（学芸員研修会）を魚津市立図書館で開催

## 2007 平成 19 年

### 能登半島地震、新潟県中越沖地震が起きる

・能登半島地震（2007/3/25 発生）に際し、石川県博物館協議会に対し 3 万円の見舞金を贈った

◇新規加盟 富山ガラス工房、富山市天文台、立山町埋蔵文化財センター／退会 二上山郷土資料館、射水市陶房「匠の里」、立山町郷土資料館、立山砂防資料館「カルデラ」[加盟75館](#)

3月7日、理事会、研修会、分野別分科会を富山県立近代美術館で開催

・講演会「横須賀市博の四半世紀」講師：林公義氏（横須賀市自然・人文博物館館長）

3月31日、「とやま博物館ガイド 2007」（加盟館企画展予定平成 19 年度）を発行（14,000 部）

3月31日、『博物館協会会報』第 29 号を発行（付：加盟館園職員名簿）（500 部）

4月25日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
・表彰規定の改定（「優良職員表彰」を「特別功労表彰」に）

11月1日、理工・自然史系分科会（学芸員研修会）を富山市科学博物館で開催

## 2008 平成 20 年

### 東海北陸自動車道が全線開通

「博物館法」一部改正（博物館運営状況の評価・改善・情報公開および都道府県教育委員会による学芸員等の研修の努力義務化など）

◇退会 富山防災センター、富山市八尾美術保存展示館、たいら郷土館 [加盟72館](#)

2月、九代会長・林時彦（2月～3月）、事務局・富山県立近代美術館（山下近代美術館長が射水市教育長に転出し、短期間、県生活環境文化部長が近代美術館長を兼務したもの）

3月7日、理事会、研修会、分野別分科会を富山県立近代美術館で開催

・講演会「博物館をとりまく現状と課題～本当に怖いのは何なのか～」講師：瀧端真理子氏（追手門学院大学）

3月31日、「とやま博物館ガイド 2008」（加盟館企画展予定平成 20 年度）を発行（14,000 部）

3月31日、『博物館協会会報』第 30 号（付：加盟館

園職員名簿）を発行（500 部）

4月24日、理事会、総会、前期研修会を富山県立近代美術館で開催（特別功労表彰、記念講演会を開催）

・講演会「地域文化と博物館」講師：長井真隆氏（富山県博物館協会第 3 代会長）

・講演会「博物館についての思い出」講師：定塚武敏氏（富山県博物館協会第 2 代会長）

・十代会長・浅田茂（4月～12月）、事務局・富山県立近代美術館

7月25日、理工・自然史系分科会（学芸員研修会）を富山市ファミリーパークで開催

12月、十一代会長・池田進（12月～翌年3月）、事務局・富山県立近代美術館（浅田近代美術館長が南砺市教育長に転出し、短期間、県生活環境文化部長が近代美術館長を兼務したもの）

## 2009 平成 21 年

### 白岩砂防堰堤が国重要文化財に指定

2月7日～15日、「ミュージアムフェア in 水墨美術館」を県文化振興財団との共催事業として富山県水墨美術館で開催



3月18日、理事会、後期研修会、分野別分科会を富山県立近代美術館で開催

・講演会「最近の博物館行政に思うこと～現状と課題～」講師：嶋崎丞氏（石川県立美術館館長）

3月31日、「とやま博物館ガイド 2009」（加盟館企画展予定平成 21 年度）を発行

3月31日、『博物館協会会報』第 31 号（付：加盟館園職員名簿）を発行

4月22日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
・十二代会長・八木近直、事務局・富山県立近代美術館

11月27日、理工・自然史系分科会（学芸員研修会）を富山市科学博物館で開催

## 2010 平成 22 年

◇退会 坂のまち美術館 [加盟71館](#)

2月6日～14日、「ミュージアムフェア in 水墨美術館」を県文化振興財団との共催事業として富山県水墨美術館で開催

3月19日、理事会、研修会、分野別分科会を砺波市美術館で開催

- ・講演会「継承される祈りのかたち～川辺外治の画業をふりかえって」講師：高野禎子氏（清泉女子大学教授）

3月31日、「とやま博物館ガイド2010」（加盟館企画展予定平成22年度）を発行

3月31日、『博物館協会会報』第32号（付：加盟館園職員名簿）を発行

4月14日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催

5月27日～28日、第52回北信越博物館協議会総会・研究協議会をグリーンビュー立山（立山町千寿ヶ原）で開催

- ・報告「日本博物館協会の主要事業と最近の動向」講師：新妻洋子氏（日本博物館協会専務理事）
  - ・講演会「知られざる芸術家の素顔」講師：竹田博志氏（日本経済新聞社東京本社編集局文化部編集委員）
- 11月19日、理工・自然史系分科会（学芸員研修会）を富山市科学博物館で開催

## 2011 平成 23 年

### 東日本大震災が起こる

社会教育調査に基づく博物館数（類似施設含む）が調査開始（1955年）以来はじめて減少に転じる 文部科学省「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」告示

◇新規加盟 樂翠亭美術館、高志の国文学館 **加盟73館**

2月5日～13日、「ミュージアムフェア in 水墨美術館」を県文化振興財団との共催事業として富山県水墨美術館で開催

3月16日、理事会、研修会、分野別分科会を魚津埋没林博物館で開催

- ・講演会「大陸とつながる文化」講師：赤羽正春氏（国際常民文化研究機構共同研究員、新潟大学非常勤講師）

3月31日、「とやま博物館ガイド2011」（加盟館企画展予定平成23年度）を発行

3月31日、『博物館協会会報』第33号を発行（付：加盟館園職員名簿）

4月21日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催

10月26日、郷土・歴史系分科会（学芸員研修会）を氷見市立博物館で開催

11月17日、理工・自然史系分科会（学芸員研修会）を富山市科学博物館で開催

## 2012 平成 24 年

### 新湊大橋供用開始

◇新規加盟 ギャラリー・ミレー／退会 利賀民俗館、黒部川電気記念館 **加盟72館**

2月11日～19日、「ミュージアムフェア in 水墨美術館」を県文化振興財団との共催事業として富山県水墨美術館で開催

3月15日、理事会、研修会、分野別分科会を高岡市美術館で開催

- ・講演会「万葉集の魅力」講師：坂本信幸氏（高岡市万葉歴史館館長、奈良女子大学名誉教授）

3月31日、「とやま博物館ガイド2012」（加盟館企画展予定平成24年度）を発行

3月31日、『博物館協会会報』第34号を発行（付：加盟館園職員名簿）

4月27日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催

- ・十三代会長・雪山行二、事務局・富山県立近代美術館

7月5日、理工・自然史系分科会（学芸員研修会）を富山市科学博物館で開催

7月14日～9月2日、理工・自然史系分科会「とやまぐるっとミュージアムクイズラリー」を実施（2014年まで実施）

11月29日、郷土・歴史系分科会（学芸員研修会）をとなみ散居村ミュージアムで開催

## 2013 平成 25 年

◇退会 富山市八尾化石資料館「海韻館」 **加盟71館**

3月、文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の補助金交付を受け、協会ウェブサイト进行全面リニューアル。クラウド型情報入力機能により加盟館自身による最新情報の更新を可能とし、画面表示はPC、スマホ、タブレットに対応した。



3月29日、理事会、研修会、分野別分科会を高志の国文学館で開催

- ・講演会「利用者とともに成長する博物館～三重の三重県立博物館づくりの事例から～」講師：天野秀昭氏（三

---

重県新博物館整備推進プロジェクトチーム副課長・  
三重県立博物館主幹)

3月31日、「とやま博物館ガイド 2013」(加盟館企画  
展予定平成 25 年度)を発行

3月31日、『博物館協会会報』第 35 号を発行(付:  
加盟館園職員名簿)

5月8日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催

5月14日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を  
魚津水族館で開催

8月28日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を  
富山県〔立山博物館〕で開催

10月28日、理事会を富山県立近代美術館で開催

10月30日、郷土・歴史系分科会(学芸員研修会)を  
氷見市文化財センターで開催

5月21～22日、第57回北信越博物館協議会総会・  
研究協議会をホテルグランミラージュ(魚津市吉島)  
で開催(予定)

## **2014 平成 26 年**

◇新規加盟 樺平ビジターセンター(再入会) 富山市  
ガラス美術館 **加盟73館**

3月4日、理事会、研修会、分野別分科会を滑川市立  
博物館で開催

・講演会「日光東照宮の発信とその未来」講師:山作  
良之氏(日光東照宮宝物館係長)

3月31日、「とやまミュージアムガイド 2014」(加盟  
館企画展予定平成 26 年度)を発行

3月31日、『博物館協会会報』第 36 号(付:加盟館  
園職員名簿)を発行

4月24日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催

6月25日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)を  
ミュゼふくおかカメラ館で開催

10月17日、理工・自然史系分科会(学芸員研修会)  
を富山県自然博物園ねいの里で開催

11月20日、郷土・歴史系分科会(学芸員研修会)を  
魚津歴史民俗博物館で開催

## **2015 平成 27 年**

北陸新幹線(長野・金沢間)が開業

2月24日、理事会、研修会を富山県立近代美術館で開  
催

・講演会「京都国立博物館平成知新館のみどころ」講師:  
村上隆氏(高岡市美術館館長・京都美術工芸大学教授)

3月31日、「とやまミュージアムガイド 2015」(加盟  
館企画展予定平成 27 年度)を発行

3月31日、『富山県博物館協会五十年史』(兼 会報 37  
号)発行(700部)

4月17日、理事会、総会を富山県立近代美術館で開催  
(予定)

## 地域に根差した美術館を目指して

高岡市美術館 館長 村上 隆

高岡市美術館は昭和26年12月、高岡市古城公園内に北陸地方唯一の公立美術館として開館した。当時のことはすでに『富山県博物館協会二十年史』等に定塚武敏元館長が記されているが、これは博物館法が施行された時期とまさに時を同じくしており、博物館とは何か、美術博物館すなわち美術館はどのような機関であり、そこで学芸員はどのような役割を果たすべきか、先例を近くにみることが困難であったにもかかわらず、着実に実績を重ねてこられた先人の歩みには敬意を表しておきたい。そのような先史を経て、当館は平成6年に現在の地に移転、リニューアルオープンし、平成26年には20周年となる記念の年を迎えた。平成元年から10年までの間、県内に新たに誕生した美術館は多く、それぞれがまた同じころ20周年を迎えることとなる。同時に多くの美術館が開館したことは、県内において美術に親しむ人びとの裾野を大きく広げることになったとともに、それぞれが地域に根ざした研究と特色ある活動を展開していく契機になっているように思う。

90年代の美術館界は、全国的に教育普及活動への関心が高く、シンポジウムなどで各地の先進的な事例が紹介された。ワークショップ、学校教育との連携、ワークシートやセルフガイドなどの教材による鑑賞教育など県内の美術館においても活動の深まりがあった。美術鑑賞のために、音楽、ダンス、文学、映画など他のジャンルを美術館に取り込むことも積極的になされた。

世紀の変わり目とともに、話題の中心は地域の活性化に移行した。成長経済の時代の終焉が意識され、人口減少、人口流出の問題が顕在化した。これらは、都市部より地域においてより深刻である。自治体存続が危うければ、自治体設置の美術館に未来はないことを、財政破綻した夕張市の例が示した。美術館が町づくり、町おこしの一翼を担うことが期待され、美術館はどのような協力が可能であるかをアピールしていかなければならない時代が到来したのである。現在の学芸員の使命は、立脚する地域の美術・工芸・文化史の記録・掘りおこしとその振興にシフトしている。美術をその歴史を見る視点そのものが、西欧の美術という「中心」と、その他「周縁」という観点に、もう納まりきれない。

平成15年の地方自治法改正により指定管理者制度が導入された。これにより、美術館評価制度の検討も大きな関心呼んだ。美術館の運営を誰に任せるかを決

定するには、事業を評価する視点が定まっていなければならないからである。観覧者数や収入だけでは計れない如何なる価値が美術館にあるかを考えると、評価のチェックポイントは膨大なものとなる。

さて当館では、平成26年の夏に企画展「メタルズ!—変容する金属の美—」を開催、この展覧会は平成27年3月まで全国各地を巡回した。一般財団法人地域創造の「公立美術館巡回展支援事業」による助成を受けながら、金属産業と関係の深い地域の美術館・博物館と連携し、およそ2年の準備期間を経て開催に至った展覧会である。ご存じのとおり、高岡は近世以来、銅器など金属器の製造を伝統産業として発展させ、その技術は現代でも広く全国から注目を集めている。ここ10年ほどの間にも、平成15年に故・大角勲氏が日本芸術院賞を受賞、平成17年に大澤光民氏が重要無形文化財保持者（鑄金）に認定されるなど、作家たちの活躍も目まじしい。そうした地域の特色を踏まえつつ、地方から発信できる展覧会を目指したのが本展である。出発を古代とすることで、金属造形がその性質・機能（輝き、彩り、響き、堅牢性、希少性など）の活用から始まっていることを示し、それらが現代までの彫刻や工芸にどのように活かされ、価値を更新されているのか、再考していただききっかけになったのではないかと思う。

また、当館では平成7年以来、「高岡市民美術展」や市内の小・中学・特別支援学校に通う児童・生徒の図画工作科・美術科作品を展示する展覧会が開催され、現在も継続している。平成18年度に高岡市が「ものづくり・デザイン科」を新設、さらに平成17年に県内国立3大学の統合によって市内にキャンパスを構える「富山大学芸術文化学部」が誕生し、創作に関わる新たな人口を生み出すとともに、制作発表の場を美術館に求める声が上がった。美術館が広く開放された場であるべきことには疑いはないが、美術館には情報を発信するものとしての責任がある。定例的な展覧会の開催にあたって、常に内容を見直し、ときに統合、再スタートが必要となることもあるだろう。そこで、当館では平成26年度より「ユース・アート・ミュージアム」構想のもと12月から3月にわたるシーズンの展覧会の流れを一部整理し、歴史ある「高岡市小学校連合展覧会」「拾美会展（中学校）」「ものづくり・デザイン科作品展」を「クリエイティブ・たかおか」展に統合、「富山大学芸術文化学部卒業・修了制作展」とあわせ、この時期に市内におけるすべてのユース世代の創作を集中して概観できるようにした。長年にわたり築かれてきた教育現場との連携が相互に実のある成果を結ぶよう、新しい取り組みはまだ始まったばかりである。

## 富山の自然：魚津水族館の役割

魚津水族館 館長 稲村 修

平成25年に魚津水族館は創立100周年を迎え、リニューアルしました。大正2年、富山県によって創設されて以降、戦争や経営難による紆余曲折を経て、現在の三代目魚津水族館は日本最古の歴史を繋いでいます。富山県唯一の水族館として「富山のさかな」を展示してきましたが、リニューアルのテーマの一つが、「もっと富山にこだわりたい!」でした。

富山は標高3000m級の北アルプス立山連峰から、日本海に面する水深1000m超の富山湾の深海まで、多様な環境がコンパクトに収まっています。富山県の東部には世界屈指の急流河川が流れ下る一方で、県西部に広がる平野部には緩い流れの河川があります。能登半島に抱かれる富山湾は日本三大深湾の一つとして、岸近くから急激に深くなっています。年間降水量が2000mmを超える富山では、陸から大量の淡水が富山湾沿岸の水面に流れ込みます。富山湾の表層には、黒潮から分かれた対馬暖流が流れる一方で、水深300m以深には水温2℃以下の冷たい日本海固有水（富山湾の深層水）が横たわっています。このような多様な水圏環境は、そこに棲む生物も多様になります。魚津水族館の対象は、この「北アルプスの溪流から日本海の深海まで」の生物です。

最近の水族館は大型化しており、イルカやシャチ、ジンベエザメなど大型生物の展示やショーが主流で、魚類が中心の魚津水族館はマイナーな存在です。しかし、世界的に動物愛護の観点や自然界での減少などの理由から、大型生物の保護に熱く厳しい視線が注がれています。水族館で飼育している生物のほとんどは、自然界から捕獲してきたもので、絶滅の危機にある生物を展示に使うのは難しくなっています。

地元の生物を中心に展示している魚津水族館でも、様々な対応が求められています。富山湾の魚などは地元の漁師さんから仕入れることが多いのですが、淡水生物は職員が採集しています。でも、ただ捕獲してくるだけなら、単なる自然からの搾取になってしまいます。そこで、普段から県内各地へ出かけて、生物調査をしています。

豊かな自然を誇っている富山県ですが、魚もカエルもその他の生物も、多くが絶滅の危機を迎えています。何処に、どのような生物が生息しており、その繁

殖の状況はどうなっているのかを知らなければ、守っていきけません。最近、動物園や水族館の中で希少種の繁殖に取り組んでいますが、これは最終的な手段であり、遺伝的な多様性を持ったまま生物を保全していくのは至難の業です。生物の大きな特徴は、環境を整えてやれば繁殖するというものですから、元々の生息地を守っていくことが重要だと考えています。理想としては、「野外で生息調査をして、保全活動を行い、その中から魚津水族館で展示する生物を採集する」といった形を考えています。今は、富山県原産のキタノメダカのの保全に取り組んでいるところです。

もともと日本の水族館は、珍しいものを見せる見世物小屋的な発想が強いといわれます。これを否定する気はありませんが、これからの水族館は自分たちで調査研究したり、他の研究者と協力したりすることで得られた知見を、うまく展示などを通して情報発信していくことが重要だと思います。そして、自分たちの身の回りにある自然を守っていきたくと思う多くの仲間を作っていきたいと考えています。富山の豊かな自然を後世に繋いでいくのが、魚津水族館の大きな使命なのです。



富山県産キタノメダカの

## ふるさと教育と博物館活動

富山県 [立山博物館] 館長 高木 三郎

平成26年9月21日、3年ぶりに布橋灌頂会が行われた。平成8年の「国民文化祭とやま」で約130年ぶりに復元されて以降、癒しの文化として開催を求める声が多く寄せられ、今回で6回目の開催となった。その間、平成23年12月には日本ユネスコ協会連盟よりプロジェクト未来遺産に登録され、平成26年の8月にはサントリー地域文化賞を受賞するなど、全国的にもこの取り組みは高く評価されるまでになった。

この布橋灌頂会の開催に立山博物館は大いに関わってきた。布橋は博物館の管理下であり、博物館の施設の一つである遙望館は、布橋灌頂会の舞台の一つであった「うば堂」をイメージして作られたことから分かるように、立山博物館は布橋灌頂会の紹介だけでなく疑似体験できる施設として作られている。博物館による調査研究や紹介が地域文化の復活につながったことは、博物館に関わる者として大いなる喜びである。

立山博物館では毎年、研究紀要を発行し、企画展ごとにポリウムのある展示解説書を作成している。立山に関わる文化の研究においては、センター的な役割を果たしているという自負がある。しかし、先日の運営委員会で、学識経験者の方から、「立山博物館は立山の研究については素晴らしい調査研究の成果をあげているが、県内の歴史全体を網羅する県立の博物館がないのは寂しい」という意見が出された。全くその通りである。実際に、富山のように県全体の歴史を通覧できる博物館を持たない県は、極めて少なくなってしまった。

富山で初の県立博物館として立山博物館が建設されるに際し、県民総合博物館構想があったと言われている。置県100年に当たる昭和58年、「富山県民総合計画」が策定されて博物館等の拡充整備の項目が立てられ、それに基づき「富山県民総合博物館基本構想策定委員会」が設置された。その委員会の検討過程で、富山県民総合博物館に先立って、立山風土記の丘の活性化を図る立山博物館の建設を進めることになった。その後、バブル崩壊もあり、総合博物館構想はうやむやになっていった。

近年、県では「ふるさと教育」に力を入れている。郷土の歴史を知ることが郷土への愛着を深めることになり、このような取り組みは大いに賛成である。知

事の意向で設置された「ふるさと教育有識者懇談会」の提言報告書では、ふるさと教育の振興は社会全体で取り組む必要があり、県は、①ふるさとに関する情報を整理し、新しい情報を提供・発信する、②県民が参加する場を提供するとともに、県民が参加しやすい環境を整備する、③指導者やボランティアの育成など県民の主体的な活動をサポートする、これら三つを上手に組み合わせて取り組んでいくことが求められている、と指摘している。これら三つの取り組みを進めるためには、ふるさと教育のセンターとなる場が必要であろう。

一方で県内の市町村立の博物館や資料館などには、優れた研究成果をあげている学芸員が増えてきた。彼らの研究成果を取りまとめるセンター的な機能をもった博物館の設置を望む声が強まっている。今、新美術館の建設計画が進められているが、その次は、新博物館の建設である。その機運を醸成するためにも、歴史系に関わる学芸員には、研究成果を地域に還元し、郷土史への興味関心を高める取り組みを強化してもらいたい。



布橋灌頂会

## 寄稿

### 博物館が地域と連携して実践する「地域回想法」について

氷見市立博物館 館長 小境卓治

氷見市立博物館は、地域に立脚した地域の博物館として、昭和57年の開館以来氷見地域を中心とする歴史・考古資料、および民俗資料の調査・研究と収集・保存、公開に努めてきました。

特に、民俗資料の大半は市民から寄贈されたもので、衣食住に用いられる生活用具や、生産や生業に用いられる農具や漁獲具、民俗芸能に用いられる道具など広範囲にわたる膨大な資料の収集と保存に努めてきました。そうした資料は洗浄を行ったうえ、虫菌害防除のためのガス燻蒸を行い、整備を終えたものから館内の常設展示のなかに組み込むほか、テーマを決めて特別展の形で可能な限り公開し、地域社会への還元を図ってきました。

これらの一連の取り組みは、当館のミッションのひとつである「地域の歴史を将来の人々へ手渡しする」の具体化と位置づけられます。また近年は、こうした取り組みを一步進めるため、平成23年度から「地域回想法」に取り組んでいます。

「地域回想法」とは、これまで認知症の非薬物療法として医療、介護現場で実践されてきた「回想法」のノウハウを活用し、地域で暮らす健康な高齢者の介護予防や生きがいづくりなどに結びつける取り組みです。愛知県北名古屋市での先駆的な取り組みによって、博物館が数多く収蔵する民具は、高齢者にとってとても懐かしく、見て、触れることによってお互いの会話が弾み、笑顔があふれるなどの効果が知られるようになってきました。

当館では、この取り組みに学び、氷見地域で実践可能なモデルを見出すために、介護施設や地区の老人クラブ等との連携を深め、博物館への見学や「思い出語りの会」を継続的に実施するほか、数種類の民具セットを施設へ貸し出しています。

民具の“保存”と“利用”という両立の難しい課題に対しては、保存状態が良く複数収蔵する物や、壊れにくい物、フジ箕やソウケなど現在でも生産可能なものを選んで貸出に対応しています。

当館の実践の場でも、懐かしい話が弾み、笑顔があふれる様子が伺われ、「心の健康づくり」にとっても効果があることが実感できます。また、祖父母が孫と博物館を訪れ、苦勞をしながら暮らしてきた当時に誇らしげに語り、それを興味深く尊敬の眼差しで見

上げる孫の様子も見受けられ、世代間交流をととして家族や地域の絆を再確認できるなど、「地域回想法」には多様な可能性があると思われます。

地域に立脚した小さな博物館が生き残りの道を模索してスタートした、この「地域回想法」を通じて、これまで随分と距離感のあった「博物館」と「福祉」の分野の連携、いわゆる「博福連携」が一層進むことが期待されます。北名古屋市の様な人口の多い大都市圏ではなく、少子高齢化や人口減少に悩む過疎地域でも実践できるよう、「氷見型地域回想法」を確立させ、全国モデルとなることを目指していきたいと願っています。



地元老人クラブが博物館で行った「思い出語りの会」

## 寄稿

### 客の心になりて

砺波市美術館 館長 小野田 裕司

平成26年12月、砺波市美術館では「越中真言の古刹 芹谷山 千光寺の至宝展」の関連催しとして、園城寺仏教尊像修復院仏師川口圭太氏を招き報告会「千光寺仁王像の修復について」を開催した。山門に安置されていた仁王像の劣化が進み、平成24年11月に修復院に託したのである。仁王像を解体したところ、スギとヒノキの部材を混用していることが判明。「大きな部材を彫っていったというより、細かい部材を組み、足りない部分を足していったという印象。かなりの技量を要する作り方で、当時の仏師が技を駆使したのだろう。」

この展覧会は砺波市合併10周年記念事業として、砺波市の公共施設三館が連携し、美術館では「千光寺の至宝展」、砺波郷土資料館では「千光寺と法道仙人展」、となみ散居村ミュージアムでは写真展「千光寺の四季」を開催した。ほぼ二年間の準備期間の中で美術系や自然史系の学芸員はじめ、文化財保護審議会委員などから構成されたワーキンググループは千光寺探訪に始まり、千光寺住職や仏教美術専攻の大学准教授の講演などを交え、10回余りの研修を重ねた。学際的な研修の場ともなり、展覧会は幅の広い楽しい企画展となった。今年度は高岡市美術館で博物館・美術館が枠組みを超えて連携した企画展「メタルズ！ー変容する金属の美ー」も開催されたが、このような試みはこれからも続けていきたいと思っている。

また当館では開館した平成9年より、市内の幼稚園、保育所の年長から小学校1、2年生までの全員を対象に、粘土、石膏、ダンボールなどを用いた素材体験に重点を置いた造形プログラム「子どもの造形アトリエ」を実施している。そこには「20年後には恋人と一緒に、30年後には家族を連れて美術館を訪れてほしい」という願いが込められている。

さて、館長として4年になるが学芸員資格はなく、スポーツ指導員C級の資格しか持たない館長である。ただ平成6年から3年間は、富山県教育委員会文化課芸術文化係として芸術文化の世界に少し係わる機会があった。富山県美術展覧会も主務の一つで、翌年の県展50周年に向けて公開審査などの県展改革が検討課題であった。平成7年には記念展として「県展の草創期に活躍した作家たち」を富山県民

会館で開催し、図録の資料編が私の担当であった。「審査員・運営委員一覧」、「県展開催状況一覧表（出品・入選状況等）（受賞者一覧）」を当時はワープロのオアシスで作成した。記念展出品作の中では、第1回知事賞の丸山豊一「天神様」、第3回知事賞の手塚義三郎「塀」や第9回第一賞の島正治「裏街」などが記憶に残っている。

平成8年には改革に沿った51回展が始まり、「富山県美術展覧会」の名称が「富山県美術展」にこの時変わった。この頃県内は美術館建設ラッシュの時期で、平成6年には高岡市美術館と福光美術館、平成7年に下山芸術の森発電所美術館、平成9年砺波市美術館、そして平成11年の富山県水墨美術館と続いた。文化課に在籍していた頃に採用となった学芸員たちも、いまは中堅となり活躍している。学芸員に必要なのは「1に体力、2に愛嬌、3、4がなくて5に知力」と言われるが、体力も知力もない私はせめて愛嬌でもと思っている。

江戸後期の大名茶人松平不昧公の言葉に「客の心になりて亭主せよ」とある。美術館もその時々の入館者の心に寄り添いながら、皆さんに喜ばれる美術館でありたいと願っている。

今宵は美術館3階のラウンジでジャズのコンサートがある。館長室を出演者の控室にと言われており、早めの帰宅とする。



撫で仏と子どもたち（千光寺展）

## 寄稿

### 富山市科学博物館の役割

#### — 自然科学博物館は何を提供し、それを保証するのは何か —

富山市科学博物館 館長 上杉 俊男

自然科学の博物館というと何が連想されるのだろうか。化石・岩石や地質図、植物や昆虫・剥製の陳列？はたまた、電気や光の実験装置？これらを連想した方は少々お年を召した方だろう。動く恐竜模型、森や海岸の景観、竜巻や降雪装置、強風の体験などを連想された方はまだお若い方と想像される。プラネタリウムや天文台の大型望遠鏡が頭に浮かんだ方は、星好きな人に違いないし、写真展などを思い起こされたなら、写真好きの方だろう。多様な展示品が借り出せるなどと思われた方は学校の先生に違いない。科学に関して質問を受けつけ疑問が解消される所と思ってくれた方は、博物館を上手に利用されている方である。収蔵庫に多くの標本が保存され、その閲覧や調査も出来ることを知っている方は、博物館と強い関係を持っている人である。

自然科学系博物館の活動の基本は、自然に関する多様な資料（事物と情報）の集積と利用にある。博物館に集められた資料は博物館資料と称され、その保存整理研究と展示普及が使命とされるが、資料が全ての活動の中心であるような施設は博物館のみである。

近年の自然環境の変化は急速である。北陸でもニホンジカやイノシシが急速に生息地を拡大し、外来の毒蜘蛛セアカゴケモも石川県にまで出現し富山にも出現する可能性が出てきた。一時、保全活動が活発に言われた水生の生物も、アキアカネのように著しく減少した（アキアカネは最近少しずつ回復しているようだが）。これらの変化には、温暖化に伴う変化の他、それとは異なる要因による変化も多々あり、人的な直接的影響による変化もたいへん大きい。このような自然環境の変化を捉え、その情報を提供するには変化を証拠づける資料の集積が必要である。また、自然を見る目の拡大、つまり自然を観察し記録する人々の養成や必要資料の提供も博物館活動の重要なところである。

科学技術や宇宙科学はめざましいスピードで進歩し、専門分野が高度化するとともに、目に見えず理解しにくい研究が発展するとともに、それらをわかりやすく普及することが重要となっている。天文台では、国内初である国際宇宙ステーションの観測会を始め、科学博物館でもプロジェクタを使用したデジタ

ルプラネタリウムシステムを採用し、リアルで迫力のある映像を投影できるようになった。近年では、スーパーカミオカンデで行われているダークマター研究を紹介する番組なども投影した。また、次第に身近なものとなりつつあるロボット技術についても、館外と連携しながら紹介している。

博物館の利用者は、その意識や要望が多様であり、必要に応じて当館の提供する内容も多様となる。当館の誕生以来さまざまな要因に対応し、展示や普及事業、市民との共同活動も変化してきた。これらの活動の全てを担ってきたのが、博物館の専門職員である学芸員である。当館には、天文系・物理化学系・地学系・動植物の自然系と各専門分野を担当し、資料収集整理・調査研究・普及展示を担う学芸員がいる。資料があり、専門の学芸員がいることで信頼される。この2つの要素が博物館に最も基本的な要素であろう。

富山県内では、弥陀ヶ原がラムサール条約湿地に登録され、立山・黒部をはじめとする富山県東部は日本ジオパークに認定される等、富山の優れた自然にも注目が集まっている。また、最新の科学技術を担う機関がある。資料と学芸員の充実によって、自然環境の変化、科学技術の目覚ましい進歩などに対応した、さらに充実した博物館活動が期待される。



富山市科学博物館展示室「とやま・時間のたび」

## 富山県博物館協会 表彰者

協会独自の表彰制度として設けられた富山県博物館協会表彰規定は平成元年7月7日から施行され、平成2年度の総会で第1回表彰を実施。平成20年度には第二代と第三代の富山県博物館協会会長を務められた定塚武敏、長井真隆の両氏を特別功労表彰、同年の前期研修会として記念講演を行っていただきました。(敬称略)

### | 永 | 年 | 勤 | 続 | 表 | 彰 |

#### ▼平成2年度

長谷川洋、神保成伍、竹沢喜美子(高岡市立美術館)  
坂下顕、加野泰男(魚津水族館)  
吉沢孝、土肥誠一(富山県民会館美術館)  
九里道守(朝日町宮崎自然博物館)  
朝倉吉彦(高岡市立博物館)  
山本源太郎(二上山郷土資料館)  
大森利子(魚津市立歴史民俗資料館)

#### ▼平成3年度

山森政治、三日市俊夫  
西一郎、竹中正男、田畑貢(富山県民会館美術館)  
岩倉節郎(井波歴史民俗資料館)  
本宮日顕(本法寺)

#### ▼平成4年度

大谷和子、布上明美(大谷和子子ども美術館)  
正川勝子(富山県教育記念館)

#### ▼平成5年度

水岡育子(助富山美術館)

#### ▼平成6年度

立野紀夫、高嶋忠夫、大房友明(富山県民会館美術館)  
元宮モリ子(本法寺)

#### ▼平成7年度

米澤明子、内山愛子(富山県民会館美術館)  
戸部靖子(二上山郷土資料館)  
倉谷寛、布村昇、赤羽久忠、石坂雅昭、根来尚、吉村博儀、南部久男、朴木英治、渡辺誠(富山市科学文化センター)  
佐伯明子、佐伯元子、志鷹ミチ子(富山県[立山博物館])

#### ▼平成8年度

山本実(富山県民会館美術館)  
高山茂樹(魚津水族館)  
吉本敬子(富山市科学文化センター)

#### ▼平成9年度

寺西孝好、田中三郎(富山県民会館美術館)  
嶋中昭子(富山市民俗民芸村)  
大坪健二、柳原正樹、片岸昭二、中川美彩緒、岩本三好  
(富山県立近代美術館)

#### ▼平成10年度

稲村修(魚津水族博物館)  
大谷弓子、中島泰子(大谷和子子ども美術館)  
熊本昭三、浅地正代(富山県民会館美術館)  
太田道人(富山市科学文化センター)  
太田蓉子(富山市民俗民芸村)  
久泉迪雄(高岡市美術館)  
野口充子(高岡市立博物館)  
小境卓治(氷見市立博物館)

#### ▼平成11年度

澤田みや子(大谷和子子ども美術館)  
清水由久(富山県民会館美術館)  
布村克志(富山市科学文化センター)  
高橋幸四郎、山本茂行、小杉潤、石原祐司  
(富山市ファミリーパーク)

安井幸子(富山市民俗民芸村)  
有馬みどり(富山佐藤美術館)  
白岩初志(滑川市立博物館)  
森本末子(富山県[立山博物館])

#### ▼平成12年度

飯野満子(富山県教育記念館)  
山本広志(富山県民会館美術館)  
寺田昭、道山勉、多奈田功、古川隆一、高原譲、小森康子  
(富山市ファミリーパーク)

#### ▼平成13年度

塩野礼子、長田裕子(大谷和子子ども美術館)  
安カ川恵子(砺波郷土資料館)

#### ▼平成14年度

坊恭子(富山県民会館美術館)  
大野究(氷見市立博物館)  
山崎美紀子、鹿熊あい子(百河豚美術館)  
村井仁志(富山市ファミリーパーク)

#### ▼平成15年度

谷端良子(桂樹舎和紙文庫)  
杉野秀樹(富山県立近代美術館)  
蒲田和志(富山県[立山博物館])

#### ▼平成16年度

吉井亮一(富山県[立山博物館])  
若松基(富山県立近代美術館)  
平井雅晶、堀口政治、小峠拓也(富山市ファミリーパーク)  
日和祐樹、坂野慶子(福岡町歴史民俗資料館)

#### ▼平成17年度

福江充(富山県[立山博物館])  
小久保啓一(富山市郷土博物館・佐藤記念美術館)  
倉田千春(富山県民会館美術館)  
大久保晴子(富山県立近代美術館)

#### ▼平成18年度

米原寛(富山県[立山博物館])  
佐伯志津子、毛利タキ子、高木清美(富山市民俗民芸村)  
志波友子(富山市科学文化センター)  
浅地豊、八木宏昌(富山県水墨美術館)  
村井彰(黒部市吉田科学館)  
稲塚展子(富山県立近代美術館)

#### ▼平成19年度

穴田美佳、金子篤(富山市ファミリーパーク)  
亀谷哲史(富山県民会館美術館)  
石須秀知(魚津埋没林博物館)  
麻生恵子(富山県立近代美術館)

#### ▼平成20年度

今村郁子(砺波郷土資料館)  
尾山章(南砺市立福光美術館)  
飯田肇(立山カルデラ砂防博物館)  
新谷秀夫(高岡市万葉歴史館)  
坂野弘幸(富山県民会館美術館)  
角波学(富山県[立山博物館])  
門田信幸(魚津水族博物館)  
瀬尾千秋(高岡市美術館)

#### ▼平成 21 年度

橘美恵子（富山市科学博物館）  
梶良枝（高岡市万葉歴史館）  
山本成子（高岡市美術館）  
竹中慎一（富山県立近代美術館）  
木村昌弘（富山市民俗民芸村）  
水戸茂樹（富山県民会館美術館）

#### ▼平成 22 年度

田村晴彦、田村玲香（大楽寺）  
伊藤博（富山県民会館美術館）  
渡邊一美、諸江丈治（南砺市立福光美術館）  
坂森幹浩（富山市郷土博物館・佐藤記念美術館）  
岸原剛、高久滋（富山市ファミリーパーク）  
鈴木博喬（富山県水墨美術館）  
丸山多美子（富山県立近代美術館）  
坂井奈緒子（富山市科学博物館）

#### ▼平成 23 年度

加藤達行（富山市郷土博物館）  
兼子心（富山市民俗民芸村）  
高橋輝男、高橋麻里子、加藤朋美（富山市ファミリーパーク）  
桐井昇子（富山県水墨美術館）

#### ▼平成 24 年度

中村賢一（黒部市宇奈月国際会館セレネ美術館）  
幸林理恵（黒部市美術館）  
檜谷文彦（魚津埋没林博物館）  
渡辺希利子（富山県立近代美術館）  
神保孝造、橋本 正春、高梨清志（富山県埋蔵文化財センター）  
藤井素彦（財高岡市民文化振興事業団）

#### ▼平成 25 年度

宮崎千夏（黒部市吉田科学館）  
菊川茂（立山カルデラ博物館）  
関正恵（富山県民会館美術館）  
久々忠義（富山県埋蔵文化財センター）  
関隆司（高岡市万葉歴史館）  
宝田陽子、仁ヶ竹亮介（高岡市美術館）  
大谷智子（氷見市立博物館）

#### ▼平成 26 年度

島瑞穂（朝日町立ふるさと美術館）  
坊公秀（富山県民会館美術館）  
林忠史（富山市科学博物館）  
山内洋（富山市ファミリーパーク）  
浅野豊、兼本正、吉田めぐみ、高橋一臣、神戸敏成、  
橋屋誠、大原隆明、栗林信夫、志内利明、山下寿之  
（富山県中央植物園）

野積正吉（射水市新湊博物館）  
末永忠宏、杉本積（砺波市美術館）

### | 特 | 別 | 功 | 労 | 表 | 彰 |

#### ▼平成 20 年度

定塚武敏（第二代富山県博物館協会会長）  
長井真隆（第三代富山県博物館協会会長）

## 富山県美術館・博物館 研究補助／研修助成

「富山県美術館博物館学芸員等研究補助」は県内の美術館・博物館または館員の共同研究に対し研究補助を行い、芸術文化活動の拠点としての美術館・博物館活動の充実をはかるためのもので、平成7年度に実施要項が定められ、同年から施行されています。研究の概要・成果は毎年研修会で発表されているほか、協会ウェブサイト「電子紀要」として掲載されています。「富山県美術館博物館学芸員等研修助成」は専門的知識及び技術の向上をはかるための研修に対して助成し、その資質の向上を図るもので、同じく平成7年度に実施要項が定められ、同年から施行されています。（敬称略）

### | 研 | 究 | 補 | 助 |

#### ▼平成 7 年度

富山市科学文化センター／坂井奈緒子  
西田美術館／高木正一

#### ▼平成 8 年度

富山市科学文化センター／朴木英治  
富山美術館／小久保啓一

#### ▼平成 9 年度

富山市科学文化センター／赤羽久忠  
高岡市美術館／舟塚雅恵

#### ▼平成 10 年度

富山市科学文化センター／南部久男  
下山芸術の森発電所美術館／長縄宣

#### ▼平成 11 年度

富山佐藤美術館／水岡育子  
砺波市美術館／末永忠宏  
富山市科学文化センター／朴木英治  
富山県民会館美術館／麻生恵子

#### ▼平成 12 年度

魚津歴史民族博物館／麻柄一志  
富山市科学文化センター／太田道人  
富山県〔立山博物館〕／福江充

#### ▼平成 13 年度

富山県〔立山博物館〕／吉野俊哉  
セレネ美術館／中村賢一  
富山県立近代美術館／稲塚展子  
富山市科学文化センター／根来尚

#### ▼平成 14 年度

富山県〔立山博物館〕／吉井亮一  
立山カルデラ砂防博物館／飯田肇  
富山市科学文化センター／南部久男、坂井奈緒子

#### ▼平成 15 年度

富山県立近代美術館／杉野秀樹  
富山市民俗民芸村／坂森幹弘

#### ▼平成 16 年度

富山県〔立山博物館〕／野口安嗣  
魚津水族博物館／高山茂樹  
富山市ファミリーパーク／村井仁志  
富山市科学文化センター／林忠史

▼平成17年度

富山県〔立山博物館〕／寺島禎一  
大島町絵本館／西小百合  
富山市科学文化センター／朴木英治

▼平成18年度

高岡市美術館／藤井素彦  
魚津市埋没林博物館／石須秀知  
富山県中央植物園／大原隆明

▼平成19年度

魚津水族博物館／高山茂樹  
高岡市美術館／山本成子  
氷見市立博物館／大野究  
小矢部ふるさと博物館／安念幹倫

▼平成20年度

魚津水族博物館／稲村修  
立山カルデラ砂防博物館／米谷正広  
氷見市立博物館／廣瀬直樹

▼平成21年度

富山市科学博物館／田中豊  
砺波郷土資料館／安カ川恵子  
氷見市立博物館／小谷超

▼平成22年度

富山市郷土博物館／萩原大輔  
氷見市立博物館／大野究  
高岡市万葉歴史館／田中夏陽子  
高岡市美術館／瀬尾千秋

▼平成23年度

氷見市立博物館／廣瀬直樹  
富山市民俗民芸村／能川志保  
富山市科学博物館／増淵佳子  
富山県水墨美術館／鈴木博喬

▼平成24年度

富山県〔立山博物館〕／加藤基樹  
氷見市立博物館／小谷超  
富山市科学博物館／林忠史  
立山カルデラ砂防博物館／丹保俊哉

▼平成25年度

滑川市立博物館／白岩初志  
氷見市立博物館／大野究  
砺波郷土資料館／安カ川恵子  
魚津水族博物館／不破光大  
富山市科学博物館／藤田将人

▼平成26年度

氷見市立博物館／廣瀬直樹  
黒部市吉田科学館／久保貴志  
立山カルデラ砂防博物館／後藤優介  
南砺市立福光美術館／渡邊一美

| 研 | 修 | 助 | 成 |

▼平成7年度

井波歴史民俗資料館／山森伸正  
高岡市立博物館／野口充子  
福光美術館／諸江丈治

▼平成8年度

井波歴史民俗資料館／山森伸正  
高岡市立博物館／野口充子、瀬尾千秋

▼平成9年度

富山市科学文化センター／根来尚  
富山県立近代美術館／麻生恵子  
高岡市美術館／舟塚雅恵

▼平成10年度

朝日町立ふるさと美術館／天内恵子  
魚津歴史民俗博物館／塩田明弘  
富山県水墨美術館／丸山多美子

▼平成11年度

富山市科学文化センター／南部久男

▼平成12年度

高岡市美術館／山本成子、宝田陽子  
富山市科学文化センター／坂井奈緒子

▼平成13年度

水橋郷土史料館／神屋恵子  
高岡市美術館／宝田陽子  
魚津水族博物館／加野泰男

▼平成14年度

高岡市美術館／篠原秀幸

▼平成15年度

富山市科学文化センター／市川真史  
井波歴史民俗資料館／山森伸正  
富山県立近代美術館／渡辺希利子

▼平成16年度

小矢部ふるさと博物館／本田和宏  
富山県埋蔵文化財センター／境洋子

▼平成19年度

魚津水族博物館／稲村修  
西田美術館／柳原奈緒  
高岡市美術館／宝田陽子

▼平成20年度

富山県立近代美術館／渡辺希利子

▼平成21年度

高岡市立博物館／仁ヶ竹亮介  
富山市民俗民芸村／能川志保

▼平成22年度

富山市科学博物館／増淵佳子  
富山市民俗民芸村／能川志保

▼平成23年度

高岡市美術館／仁ヶ竹亮介  
滑川市立博物館／近藤浩二

▼平成24年度

滑川市立博物館／近藤浩二

▼平成25年度

富山市ファミリーパーク／酒井義孝  
高岡市立博物館／藤井恵里

▼平成26年度

高岡市立博物館／藤井恵里



研究発表(平成23年度研修会)

# 富山県博物館協会規約

## 第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、富山県博物館協会という。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、会長の所属する館園におく。

(目 的)

第3条 本会は、富山県内にある博物館とこれに類する施設が相互の連絡連携をとり、博物館事業の普及発展をはかることを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 研究会、講演会、鑑賞会、理事会等開催、出版物の刊行及び各館友の会の交歓
- (2) 県民への普及啓発活動
- (3) その他必要な事業

## 第2章 組 織

(種 別)

第5条 本会は、富山県内にある博物館及びこれに類する施設によって組織する。(本会を組織する施設に属する職員は、すべて本会の事業に参画できる。)

(会 費)

第6条 本会に入会した館園は年額5,000円の会費を納するものとする。

(入 会)

第7条 本会に入会する館園は、入会申込書を会長に提出し理事会の承認を得なければならない。

## 第3章 役 員

(種 別)

第8条 本会に、つぎの役員をおく。

- |     |     |
|-----|-----|
| 会 長 | 1名  |
| 副会長 | 1名  |
| 理 事 | 若干名 |
| 幹 事 | 若干名 |
| 監 事 | 2名  |

2 理事及び監事は、相互に兼ねることができない。

(選 任)

第9条 会長、副会長は、理事の互選による。

3 理事及び監事は、総会において選任する。

4 幹事は、会長が委嘱する。

(職 務)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

3 幹事は、庶務、会計等会の事務を分担する。

4 監事は、会計監査を行い、その結果を総会に報告する。

(任 期)

第11条 役員の任期は2年とする。ただし、役員が欠けた時は、後任者をもって充て、任期は前任者の残任期間とする。

2 役員は、再任を妨げない。

## 第4章 会 議

(種 別)

第12条 本会の会議は、総会、理事会とし、会長が召集する。

2 総会は毎年1回開催し、理事会の決定事項並びに役員の変更等について審議する。ただし、会長は、必要に応じて臨時総会を開くことができる。

3 理事会は、会務の処理、議案の審議その他重要事項を審議する。

## 第5章 会 計

(経 費)

第13条 本会の経費は、会費、寄付金その他をもってこれにあてる。

(予算及び決算)

第14条 本会の予算は理事会の承認を経なければならない。

2 本会の決算は、監事の会計監査を経て総会の承認を経なければならない。

(会計年度)

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第6章 規約の変更

(規約の変更)

第16条 この規約は、総会の承認がなければ変更することができない。

附則 本規約は、昭和44年4月1日から施行する。

附則 本規約は、昭和46年4月1日から一部改正施行する。

附則 本規約は、昭和54年6月22日から一部改正施行する。

附則 本規約は、昭和62年5月21日から一部改正施行する。

附則 本規約は、平成6年5月20日から一部改正施行する。

附則 本規約は、平成16年4月22日から一部改正施行する。

## 富山県博物館協会加盟館園

●休館日は、変更の場合がありうるので、事前に確認が必要。●観覧料は原則として常設展の個人料金で、特別展・企画展は別料金が必要。

NO.	館園名	代表者	設置(運営)	〒	所在地	電話番号	FAX番号
1	朝日町立ふるさと美術館	館長 数家 善継	公立(財団)	939-0731	下新川郡朝日町東草野466-8	0765-82-0094	0765-82-0094
2	(一財)百河豚美術館	館長 岸岡 幸雄	私立(財団)	939-0723	下新川郡朝日町不動堂6	0765-83-0100	0765-83-1500
3	入善町下山芸術の森発電所美術館	館長 岩田 毅	公立(財団)	939-0631	下新川郡入善町下山364-1	0765-78-0621	0765-78-0621
4	うなづき友学館(黒部市歴史民俗資料館)	館長 飯野 勉	公立	938-0861	黒部市宇奈月町下立682	0765-65-1010	0765-65-1055
5	セレネ美術館	理事長 堀内 康男	公立(財団)	938-0282	黒部市宇奈月温泉6-3	0765-62-2000	0765-62-2020
6	樺平ビジターセンター	館長 志村 幸光	公立	938-0200	黒部市宇奈月町黒部奥山国有林地内(樺平ビジターセンター運営協議会)	0765-62-1155	0765-65-1155
7	黒部市吉田科学館	館長 能澤 雄二	公立(財団)	938-0005	黒部市吉田574-1	0765-57-0610	0765-57-0630
8	黒部川扇状地フィールドミュージアム事業推進協議会		公立	938-0005	黒部市吉田574-1(黒部市吉田科学館内)	090-8262-4985	0765-57-0630
9	黒部市美術館	館長 杉田 欣次	公立(財団)	938-0041	黒部市堀切1035(黒部市総合公園内)	0765-52-5011	0765-52-5011
10	魚津水族博物館	館長 稲村 修	公立	937-0857	魚津市三ヶ1390	0765-24-4100	0765-24-4128
11	魚津埋没林博物館	館長 麻柄 一志	公立	937-0067	魚津市釈迦堂814	0765-22-1049	0765-23-9105
12	魚津歴史民俗博物館	館長 大澤 伸一	公立	937-0022	魚津市小川寺宇天神山1070	0765-31-7045	0765-31-7220
13	ほたるいかミュージアム	代表取締役 上田 昌孝	私立(会社)	936-0021	滑川市の中川原410	076-476-9300	076-476-9301
14	滑川市立博物館	館長 白岩 初志	公立	936-0835	滑川市開676	076-474-9200	076-474-9201
15	西田美術館	館長 山口 松蔵	私立(会社)	930-0397	中新川郡上市町郷柿沢1	076-472-4352	076-472-5559
16	弓の里歴史文化館	館長 山崎 正晴	公立(財団)	930-0474	中新川郡上市町館182	076-473-8100	076-473-8101
17	立山町埋蔵文化財センター	館長 山元 秀一	公立	930-3222	中新川郡立山町谷口43	076-463-1050	076-463-1050
18	富山県[立山博物館]	館長 高木 三郎	公立(一部財団)	930-1406	中新川郡立山町芦崎寺93-1	076-481-1216	076-481-1144
19	富山県立山自然保護センター	所長 黒田 悦弘	公立(会社)	930-1414	中新川郡立山町芦崎寺(室堂平)	076-463-5401	076-463-5405
20	立山カルデラ砂防博物館	館長 本田 孝夫	公立(財団)	930-1405	中新川郡立山町芦崎寺字ブナ坂68	076-481-1160	076-482-9100
21	富山市大山歴史民俗資料館	館長 前田 俊幸	公立	930-1459	富山市亀谷1	076-481-1415	076-481-1417
22	富山県交通公園交通安全博物館	園長 南 正一	公立(財団)	931-8441	富山市高島62-1	076-451-9300	076-451-9300
23	樂翠亭美術館	館長 石崎 由則	私立(会社)	930-0857	富山市奥田新町2-27	076-439-2200	076-439-2233
24	北陸電力エネルギー科学館	館長 田村 義雄	私立(会社)	930-0858	富山市牛島町18-7 アーバンプレイス3F/4F	076-433-9933	076-433-9934
25	(公財)富山県ひとづくり財団富山県教育記念館	館長 伏黒 昇	公立(財団)	930-0018	富山市千歳町1-5-1	076-433-2770	076-444-2001
26	高志の国文学館	館長 中西 進	公立(一部財団)	930-0095	富山市舟橋南町2-22	076-431-5492	076-431-5490
27	富山県民会館美術館	館長 清水 由久	公立(財団)	930-0006	富山市新総曲輪4-18	076-432-3113	076-432-2024
28	富山市郷土博物館・富山市佐藤記念美術館	館長 木村 昌弘	公立	930-0081	(博物館)富山市本丸1-62 (美術館)富山市本丸1-33	(博物館)076-432-7911 (美術館)076-432-9031	(博物館)076-432-8060 (美術館)076-432-9080
29	富山市ガラス美術館(8月22日開館)	館長 渋谷 良治	公立	930-0062	富山市西町5-1	076-443-2209	076-443-2170
30	大谷和子子ども美術館	館長 大谷 弓子	私立	930-0058	富山市古鍛冶町1-17	076-425-4111	076-425-6913
31	ギャリ・ミレー	館長 八木 近直	私立(任意団体)	930-0044	富山市中央通り2-1-20	076-423-7220	076-423-7220
32	富山市科学博物館	館長 宮本 博行	公立	939-8084	富山市西中野町1-8-31	076-491-2123	076-421-5950
33	富山県立近代美術館	館長 雪山 行二	公立(一部財団)	939-8636	富山市西中野町1-16-12	076-421-7111	076-422-5996
34	富山県水墨美術館	館長 柳原 正樹	公立(一部財団)	930-0887	富山市五福777	076-431-3719	076-431-3720
35	富山市民俗民芸村	村長 箕輪 吉泰	公立	930-0881	富山市安養坊1118-1	076-433-8270	076-433-8370
36	富山県埋蔵文化財センター	所長 安念 幹倫	公立	930-0115	富山市茶屋町206-3	076-434-2814	076-434-2859
37	富山ガラス工房	専務理事・事務局長 碓井 昭夫	公立(財団)	930-0151	富山市古沢152	076-436-2600	076-436-5735

開館時間	休館日	常設展観覧料(または入館料等)	児童生徒	備考
9:00~17:00(入館は16:30まで)	火曜日(火曜祝日の場合は翌日)、展示替期間中、年末年始等	大人300円~400円 ※企画展により異なる	23年度より子どもパスポート発行、年間無料(小・幼)	
9:00~17:00(受付は16:00まで)(季節により変動あり)	月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替期間	大人700円、大高500円、中小300円 ※20名以上団体割引	児童生徒無料日あり	
9:00~17:00(入館は16:30まで)	月曜日、祝日の翌日、冬期(12月中旬~2月末)、展示替期間中	企画展:500円 収蔵品展:200円	中学生以下無料	
9:00~18:00	月曜日(休日にあたるときは火曜日)、休日の翌日、毎月の最終木曜日、年末年始(12/29~1/4)	大人300円、団体240円(20名以上)、身障者手帳をお持ちの方は無料	中学生以下無料	
9:00~17:30(入館は閉館30分前まで)	4~10月及び年始は無休、年末は休館 11~3月は火曜日。火曜祝日の場合翌日の振替休日はありません。	一般610円、大学・高校生510円	中学生以下通年無料(引率の教師等も無料)	
	12月~4月	無料	無料	
9:00~16:30	月曜日、祝日の翌平日、年末年始	無料(プラネタリウム・3Dビジョンは観覧料が必要/大人300円、高校大学生150円)	入場無料、プラネタリウム・3Dビジョンは中学生以下無料	
	月・土・日曜日、祝日、祝日の翌平日、年末年始			
9:30~16:30(入館は16:00まで)	月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始	企画展観覧料に含む	中学生以下無料	
9:00~17:00(入館は16:30まで)	年末年始(12/29~1/1)、臨時休館日あり	大人750円、小中学生410円、3歳以上幼児100円※有料入館者20名以上で団体料金	魚津市内の中学生以下は、全開館日無料	授乳室あり
9:00~17:00(入館受付は16:30まで)	年末年始(12/29~1/1)	大人520円(420円)、小中学生260円(210円)※( )は20名以上団体	中学生以下土曜日、日曜日、祝日無料	
9:00~17:00	12/1~3/31、月曜日(月曜日が祝日にあたる場合は翌平日)	無料	無料	休館中連絡先:魚津市生涯学習・スポーツ課 TEL(0765)23-1045 FAX(0765)23-1052
9:00~17:00(入館は16:30まで)	6/1~3/19の毎週火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、1月の最終月曜日から3日間	大人800円(3/20~5/31)、600円(6/1~3/19) 小人400円(3/20~5/31)、300円(6/1~3/19)		
10:00~18:00(入館は17:30まで)	月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)、祝日、年末年始	無料	無料	
9:30~16:30(入館は16:00まで)	月曜日・火曜日(企画展開催中は月曜日のみ)(休館日が祝日の場合は祝日の翌日)、年末年始、展示替期間	大人500円、大学生300円 ※企画展別途 ※15名以上団体割引あり	高校生以下無料	
9:00~17:00(入館は16:30まで)	月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始	無料	無料	
9:30~17:00(入館は16:30まで)	祝日、年末年始、12月1日~翌年3月31日までの土・日	無料	無料	連絡先:立山町教育課 TEL(076)462-9983 FAX(076)463-1923
9:30~17:00(入館は16:30まで)	月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始	展示館300円、透望館100円、まんだら遊苑400円、3施設セット券650円	通年無料	
8:30~17:00(ただし7/16~8/31は17:30まで延長)	11月中旬~4月中旬	無料	無料	冬期間連絡先:富山県庁自然保護課内 TEL(076)444-3399 FAX(076)444-4430
9:30~17:00(入館は16:30まで)、GW・夏季期間は8:30~17:00、9・10月の連休は9:00~17:00	月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始	一般400円、団体(20名以上)320円 大学生320円、団体(20名以上)200円	高校生以下無料	
9:30~17:00	月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、12/28~1/4	大人100円(高校生以上)、小中学生50円 ※20名以上の団体の場合は大人90円、小中学生40円	無料日あり、授業等による減免規定あり	
9:00~16:30	祝日、土曜日、年末年始(12/29~1/3)	無料	無料	団体見学、又は交通指導を希望の方は、事前に申し込んで下さい。
10:00~17:00(入館は16:30まで)	水曜日(祝日または振替休日にあたる場合は翌平日)、年末年始、展示替期間、その他準備期間	大人800円~1,200円、学生400円~800円 ※展覧会により異なる	小学生以下無料	
9:00~17:00	月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)、年末年始(12/30~1/3)	無料	無料	
9:00~17:00(入館は16:30まで)	祝日、年末年始、8/13~8/16	無料	無料	
9:30~17:00(入室は16:30まで)	火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始	大人200円、大学生160円※企画展別途(企画展観覧料で、常設展もご覧いただけます)	通年無料	
9:00~22:00(催事により時間が変わります)ただし、美術館は概ね9:00~18:00	不定休、年末年始	なし	県民会館が企画した主催展について無料	
9:00~17:00(入館は16:30まで)	年末年始(12/28~1/4)、展示替え及びメンテナンス等の臨時休館	大人210円(両館共通券は310円)、小中学生100円(両館共通券は150円)	無料日あり	郷土博物館は、2階展示室まではバリアフリーとなっておりますが、建物の構造上、4階の天守展望台へは階段のみとなっています。
9:30~18:00(金・土は20:00まで)	第1・第3水曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12/29~1/3)	大人200円(常設展のみ)	児童生徒常設展無料	
10:00~17:00	要問い合わせ(行事開催時のみ閉館)	無料	無料	
10:00~17:00(入館は16:30まで)	月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土日を除く)、年末年始	大人200円、高校生100円	小中学生無料	
9:00~17:00(入館は16:30まで)	年末年始(12/28~1/4)、臨時休館日あり	大人520円(高校生以上)、小人210円(小中学生)、幼児無料	小中学生土・日・祝日無料	
9:30~17:00(入館は16:30まで)	月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始、臨時休館日あり	大人200円、大学生160円、企画展別途(企画展観覧料で、常設展もご覧いただけます)	通年無料	
9:30~17:00(入室は16:30まで)	月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始(12/28~1/4)	大人200円(団体料金有)※企画展別途(企画展観覧料で、常設展もご覧いただけます)	通年無料	
9:00~17:00(入館は16:30まで)	年末年始(12/28~1/4)、臨時休館あり	大人:1館100円、全館520円、小人:1館50円、全館260円※20名以上は団体割引(2割減免)	小中学生土・日・祝休日無料	
9:00~17:00	金曜日(祝日の場合は翌連最初の平日)、年末年始(12/28~1/4)、4/1~4/9、7/25~7/30、9/7~9/11、11/11/24~12/8、3/22~3/31 ※ただし5/1、8/7~9/4の金曜日、9/18は閉館	無料	無料	
9:00~17:00	年末年始(12/28~1/4)	無料	無料	体験予約専用 TEL(076)436-3322 FAX(076)436-3326

NO.	館 園 名	代表者	設置 (運営)	〒	所在地	電話番号	FAX番号
38	富山市ファミリーパーク	園長 山本 茂行	公立 (財団)	930-0151	富山市古沢254	076-434-1234	076-434-1208
39	富山市天文台	富山市科学博物館館長 上杉 俊男	公立	930-0155	富山市三熊49-4	076-434-9098	076-434-9228
40	自然博物園「ねいの里」	館長 富永 宣宏	公立 (財団)	939-2632	富山市婦中町吉住1-1	076-469-5252	076-469-5865
41	富山県中央植物園	園長 中田 政司	公立 (財団)	939-2713	富山市婦中町上善田42	076-466-4187	076-465-5923
42	富山県国際健康プラザ 生命科学館	館長 石坂 博信	公立 (財団)	939-8224	富山市友杉151	076-428-0809	076-428-0831
43	富山市八尾曳山展示館	事務局長 吉本栄和生	公立 (法人)	939-2342	富山市八尾町上新町2898-1	076-454-5138	076-454-3118
44	富山市八尾おわら資料館	館長 吉岡 聖一	公立	939-2354	富山市八尾町東町2105-1	076-455-1780	076-455-1819
45	桂樹舎和紙文庫	館長 吉田 泰樹	私立	939-2341	富山市八尾町鏡町668-4	076-455-1184	076-455-1189
46	富山市猪谷関所館	館長 加藤 敏一	公立	939-2187	富山市猪谷978-4	076-484-1007	076-484-1845
47	大楽寺	事務長 田村 玲	私立 (宗教)	934-0013	射水市立町2-9	0766-82-3016	
48	射水市新湊博物館	館長 原田 義範	公立	934-0049	射水市鏡宮299	0766-83-0800	0766-83-0802
49	射水市大島絵本館	館長 立野 幸雄	公立 (財団)	939-0283	射水市鳥取50	0766-52-6780	0766-52-6777
50	高岡市美術館	館長 村上 隆	公立 (財団)	933-0056	高岡市中川1-1-30	0766-20-1177	0766-20-1178
51	富山県立高岡工芸高等学校 青井記念館美術館	館長 浦上 樹	公立	933-8518	高岡市中川1-1-20	0766-21-1630	0766-22-1631
52	高岡市立博物館	館長 晒谷 和子	公立 (財団)	933-0044	高岡市古城1-5	0766-20-1571	0766-20-1570
53	宗教法人 高岡山瑞龍寺	住職 四津谷道宏	私立 (宗教)	933-0863	高岡市関本町35	0766-22-0179	0766-26-6978
54	ミュゼふくおかカメラ館	館長 金山 嘉宏	公立 (財団)	939-0117	高岡市福岡町福岡新559	0766-64-0550	0766-64-0551
55	高岡市福岡歴史民俗資料館	館長 網代 吉孝	公立	939-0143	高岡市福岡町下向田字畦ヶ谷内15	0766-64-5602	0766-64-5602
56	高岡市万葉歴史館	館長 坂本 信幸	公立 (財団)	933-0116	高岡市伏木一宮1-11-11	0766-44-5511	0766-44-7335
57	氷見市海浜植物園	理事長 本川祐治郎	公立 (財団)	935-0031	氷見市柳田3583	0766-91-0100	0766-91-4567
58	氷見市立博物館	館長 小境 卓治	公立	935-0016	氷見市本町4-9	0766-74-8231	0766-74-5520
59	小矢部市大谷博物館	館長 中村 重樹	公立	932-0806	小矢部市水落35	0766-68-2717	0766-68-2717
60	宗教法人 千光寺	住職 安念 道雄	私立 (宗教)	939-1416	砺波市芹谷1111	0763-37-0072	0763-37-0730
61	砺波市美術館	館長 小野田裕司	公立 (財団)	939-1383	砺波市高道145-1	0763-32-1001	0763-32-6361
62	砺波市立砺波郷土資料館	館長 高原 徹	公立	939-1382	砺波市花園町1-78	0763-32-2339	0763-32-2436
63	となみ散居村ミュージアム	館長 川原 国昭	公立	939-1363	砺波市太郎丸80	0763-34-7180	0763-34-7182
64	松村外次郎記念 庄川美術館	館長 松村 樹	公立 (財団)	932-0305	砺波市庄川町金屋1066	0763-82-3373	0763-82-3373
65	庄川水資料館	館長 松村 樹	公立 (財団)	932-0305	砺波市庄川町金屋1100	0763-82-3373	0763-82-3373
66	福野文化創造センター ヘリオス	館長 高瀬 唯雄	公立 (指定管理)	939-1576	南砺市やかた100	0763-22-1125	0763-22-1127
67	南砺市立福光美術館	館長 奥野 達夫	公立	939-1626	南砺市法林寺2010	0763-52-7576	0763-52-7515
68	南砺市埋蔵文化財センター	所長 松平 信隆	公立	932-0252	南砺市高瀬736(高瀬遺跡)	0763-82-5050	0763-82-5050
69	井波彫刻総合会館	館長 高桑 良昭	公立 (協同組合)	932-0226	南砺市北川733	0763-82-5158	0763-82-5163
70	井波美術館	館長 前川 正治	公立 (館同人)	932-0234	南砺市井波3624	0763-82-5523	0763-82-5523
71	南砺市立相倉民俗館	理事長 図書 健裕	公立 (財団)	939-1915	南砺市相倉352	0763-66-2732	0763-66-2180
72	民俗資料館 村上家	村上忠兵衛	私立	939-1914	南砺市上梨725	0763-66-2711	0763-66-2150
73	宗教法人 行徳寺	住職 道宗 宣明	私立 (宗教)	939-1977	南砺市西赤尾町825	0763-67-3302	

開館時間	休 館 日	常設展観覧料 (または入館料等)	児童生徒	備 考
9:00~16:30(3/15~11/30)、 10:00~15:30(12/1~翌2月末)	年末年始及び3/1~3/14	大人500円(高校生以上)	中学生以下無料	
日~火曜日は10:00~17:30、 水~土曜日は13:00~21:30	年末年始(12/28~1/4)、臨時休館あり	大人210円(高校生以上)、小人100円 (小中学生)、幼児無料	小中学生 土・日・祝日無料	4月下旬から10月末まで、夜間観覧 会に合わせて駐車場(古瀬の湯)から 天文台まで無料送迎バスあり。
9:00~17:00	火曜日(祝日は除く)、祝日の翌日(翌日が土・ 日曜の場合は月曜)、年末年始	無料	無料	
9:00~17:00(入園は16:30まで)、11月~ 1月は9:00~16:30(入園は16:00まで)	木曜日(祝日を除く)、 年末年始(12/28~1/4)	大人500円(団体20名以上400円)、冬期(12月~2月) 大人300円(団体240円)※年間パスポート2,000円	高校生以下通年無料	
10:00~17:30	月曜日(祝日除く)、祝日の翌日、元日、施設 点検日	無料	無料	
9:00~17:00(受付は16:30まで)	年末年始	大人500円、小人300円(高校生以下) 20名以上1割引、100名以上2割引		連絡先:八尾総合行政センター農林商工課 TEL(076)454-3117 FAX(076)454-3118
9:00~17:00(16:30受付終了)	年末年始、機器点検時に臨時休館	大人210円(高校生以上)、小人100円(小中学生) ※20名以上の団体、大人160円、小人90円	小中学生 土・日・祝日無料	連絡先:八尾教育行政センター TEL(076)454-3329 FAX(076)454-3116
10:00~17:00 (入館は16:30まで)	月曜日(祝日の場合は翌日)、 9/5~6、12/29~1/10、臨時休館あり	大人500円、小中学生250円 ※団体割引、各20名以上20%引き		
9:00~17:00(入館は16:30まで)	月曜日、休日の翌日、年末年始	大人150円※団体20名以上ひとり120円	中学生以下無料	
9:30~16:40	年中無休(事前に予約が必要)	大人200円	小中学生無料	
9:00~17:00(入館は16:30まで)	火曜日(祝日除く)、祝日の翌日、 年末年始(12/28~1/4)	大人310円※65歳以上又は障がいのある 方150円、団体割引は20名より	中学生以下無料	
9:30~17:30	月曜日(祝日の場合は翌日)、月1回資料整理 日、年末年始(12/28~1/4)	大人510円、中高生310円、小学生100円 ※団体20名以上は2割引、各種福祉手帳をお持ちの方は無料	射水市内在住の小中 学生は土・日・祝日無料	
9:30~17:00(入館は16:30まで)	月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、 年末年始(12/29~1/3)	大人210円、団体(20名以上)160円※企画展は別途 高校・大学生150円、団体(20名以上)120円	小中学生・特別支援学 校生は常設展無料。	
10:00~16:00 (15:30まで入館完了)	月曜日(祝日の場合、その翌日)、年末年始、 展示替期間	無料	無料	
9:00~17:00(入館は16:30まで)	毎週月曜日(月曜日が祝・休日の場合はその 翌平日)、年末年始	無料	無料	
9:00~16:30 (冬期12/10~1/31は9:00~16:00)	年中無休	大人500円、中高生200円、小学生100円 ※団体(30名以上)大人400円、中高生150円、小学生70円		
9:00~17:00(入館は16:30まで)	月曜日(祝日は除く)、祝日の翌日、 展示替期間、年末年始	大人300円、大高校生200円、 小中学生100円	無料日あり	
9:00~16:30	月曜日、祝日の翌日、年末年始	大人100円、小中学生50円 ※20名以上の団体、大人80円、小中学生30円	無料日あり	
4月~10月9:00~18:00 11月~3月9:00~17:00	火曜日(火曜日が祝休日の場合はその翌 日)、年末年始	一般210円、65歳以上160円、 団体(20名以上)170円	中学生以下通年無料	館内には、図書閲覧室(万葉集に関する図書・論文等を 配布。一般の方の利用可、ただし、貸出不可)、講義室(定 員12名程度、講義・研修等のために貸出可)がある。
9:00~17:00(入園は16:30まで)、 冬期(11/1~2月末)9:00~16:30(入園は16:00)	火曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土日祝日 を除く)、年末年始(12/29~1/3)	イベント期間中(不定期開催)は有料		イベントごとに設定料金は 異なります。
9:00~17:00(入場は16:30まで)	月曜日、12/28~1/4 国民の祝日の開館と振替休日につ いては、その都度博物館にお問い合わせいただくか、ホームペ ージでご確認ください。	一般(高校生以上)100円、小中学生50円 ※30名以上は団体料金(一般60円、小中学生30円)	氷見市内の小中学生 は無料で入館可	
9:00~16:30	月曜日(その日が祝日の時はその日後の最も 近い平日)、年末年始	無料	無料	国登録有形文化財「旧大谷家 住宅」を博物館としています。
8:00~17:00	年中無休	個人随意		
10:00~18:00(金・土に市民アトリエ等の 夜間利用がある場合は21:00まで開館)	年末年始、展示替期間、施設点検日(ホーム ページ等をご参照ください)	一般200円[160円]、小・中・高100円[80円] ※[ ]内は20名以上の団体料金、65歳以上の方の減無料金です	教育活動での観覧は、引率者 を含め無料、他に親子優待もあり	
9:00~17:00	月曜日(祝日の場合は翌日)、 第3日曜日、年末年始、展示替時	無料	無料	
9:00~21:00 (民具館は18:00まで)	毎週水曜日(祝日を除く)、 第3木曜日(祝日を除く)、12/29~1/3	民具館以外の施設は無料 民具館:大人100円、20名以上の団体80円	無料	
9:00~18:00(入館は17:00まで)	火曜日(祝日の場合は翌日)、展示替時、 年末年始	一般・大学生210円、小中高生100円 ※20名以上の団体、65歳以上の方は2割引	遠足等教育活動は 減無料金	企画展観覧料に常設展示の観覧料が 含まれる。企画展観覧料はその都度別 に定めるため問い合わせいただきたい。
9:00~18:00(入館は17:00まで)	火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始	一般・大学生210円、小中高生100円 ※20名以上の団体、65歳以上の方は2割引	遠足等教育活動は 減無料金	
9:00~18:00 (貸館:学習室、ホールは21:30)	火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始	無料	無料	
9:00~17:00(入館は16:30まで)	火曜日、祝日の翌日、年末年始	大人300円、高大学生200円	通年無料	
9:00~17:00	火曜日、年末年始、火曜日が祝日の場合翌日	無料	無料	事務所は分館にて(田南砺市立井波高 瀬保育園)休み:土・日・祝日・年末年始 TEL(0763)82-5050
9:00~17:00(入館は16:30まで)	第2・4水曜日(祝日の場合は翌日休館)、 年末年始	大人500円、小中学生250円 ※団体25名以上大人400円、小中学生200円	南砺市の小中学生は 無料	
9:00~16:00	火曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、 冬季(1月、2月)	無料	無料	
8:30~17:00	年中無休	大人200円(150円)、高校生100円(70円)、小中学生 50円(30円)※( )内料金は20名以上の団体割引料金		駐車場1回500円 (集落保存協力金)
冬期(12月~3月)=9:00~16:00 夏期(4月~11月)=8:30~17:00	水曜日(祝日開館)、年末年始	高校生以上300円、小中学生150円 ※団体(30名以上)2割引		
9:00~16:00	12月~3月	大人300円		

## 事務局だより（平成26年度）

平成26年4月24日

- 第1回理事会（会場：富山県立近代美術館 出席18名）
  - ・役員の改選について
  - ・平成26年度研究補助、研修助成の選考について
  - ・平成25年度事業報告、収支決算報告及び監査報告について
  - ・平成26年度事業計画案及び収支予算案について
  - ・平成26年度表彰について
- 総会（会場：富山県立近代美術館 出席40館73名）
  - ・平成26年度表彰
  - ・役員の改選について
  - ・平成25年度事業報告、収支決算報告及び監査報告について
  - ・平成26年度事業計画及び収支予算について
  - ・退会館について（退会：富山市八尾化石資料館「海韻館」）
  - ・国立公文書館アジア歴史資料センターからのプレゼンテーション
  - ・視察（富山県立近代美術館）

平成26年6月25日

- 理工・自然史系分科会研修会開催  
第20回富山県理工・自然史系学芸員研修会

平成26年7月6日

- 後援活動  
第5回公益社団法人日本動物園水族館シンポジウム  
「いのちの博物館の実現に向けて～消えていいのか、日本の動物園・水族館～」

平成26年10月17日

- 理工・自然史系分科会研修会開催  
第21回富山県理工・自然史系学芸員研修会

平成26年10月18日

- 後援活動  
富山市ファミリーパーク開園30周年記念事業 ライチョウシンポジウム 「ニホンライチョウが生き続けるために」

平成26年11月20日

- 郷土・歴史系分科会研修会開催

平成27年2月24日

- 第2回理事会（会場：富山県立近代美術館 出席14名）
  - ・平成27年度表彰について

- ・平成26年度事業報告について
- ・平成27年度事業計画案及び収支予算案について
- ・新規加盟館について（加盟：樺平ビクターセンター、富山市ガラス美術館）
- ・北信越博物館協議会総会・研究協議会について
- ・富山県博物館協会50周年記念事業について
- ・災害時の互助協力体制について
- 研修会・分野別分科会（会場：富山県立近代美術館）
  - ・研修会（出席32館62名）
    - 研究発表
      - 「仏師 長谷川喜十郎とその弟子の調査研究」  
滑川市立博物館・白岩初志氏
      - 「能越国境地域における雨乞習俗」  
氷見市立博物館・大野究氏
      - 「砺波地方の神社研究－吉田神道と修験勢力のせめぎあいの中で－」  
砺波市立砺波郷土資料館・安カ川恵子氏
      - 「魚津市内における生物環境調査」  
魚津水族博物館・不破光大氏
      - 「富山市産アンキロサウルス類（恐竜類）の足跡化石の分類学的研究」  
富山市科学博物館・藤田将人氏
    - 講演会  
「京都国立博物館平成知新館のみどころ」  
講師：村上隆氏（高岡市美術館館長・京都美術工芸大学教授）
  - ・分野別分科会（郷土・歴史系、美術系、理工・自然史系）  
（出席 32館62名）

平成27年3月31日

- 富山県博物館協会50年史（兼富山県博物館協会会報第37号）発行（製作部数：700部）
- とやまミュージアムガイド（加盟館園平成27年度展覧会予定）発行（製作部数：14,000部）

協会ホームページの主要な更新

- 平成26年4月1日
  - ・加盟館情報、展覧会情報（4～7月）
- 平成26年4月24日
  - ・とやま博物館ガイドPDF版及び電子カタログ（平成26年度）掲載
- 平成26年6月30日
  - ・展覧会情報（7～11月）掲載
- 平成26年10月19日
  - ・展覧会情報（11～3月）掲載
- 平成27年3月31日
  - ・「電子紀要」に研究発表を1件追加

## 富山県博物館協会五十年史

兼 富山県博物館協会会報『とやまミュージアム・アニュアル』  
第37号(平成26年度)

付：富山県博物館協会加盟館園職員名簿

平成27年3月31日発行

編集発行 富山県博物館協会  
〒939-8636 富山市西中野町1-16-12  
富山県立近代美術館内  
076-421-7111

印刷製本 とうざわ印刷工芸株式会社